

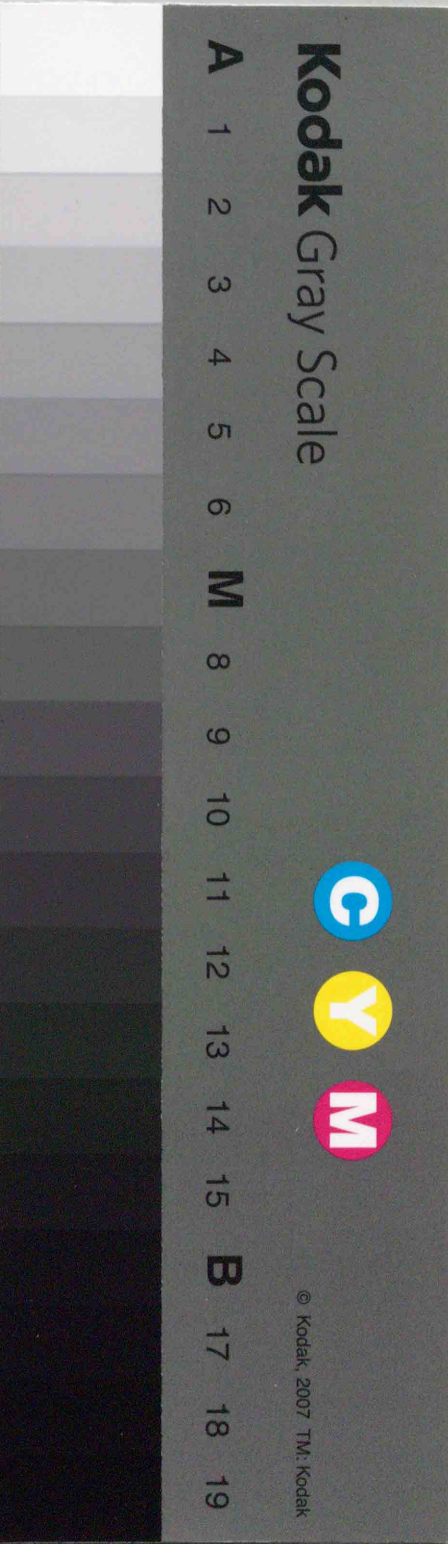
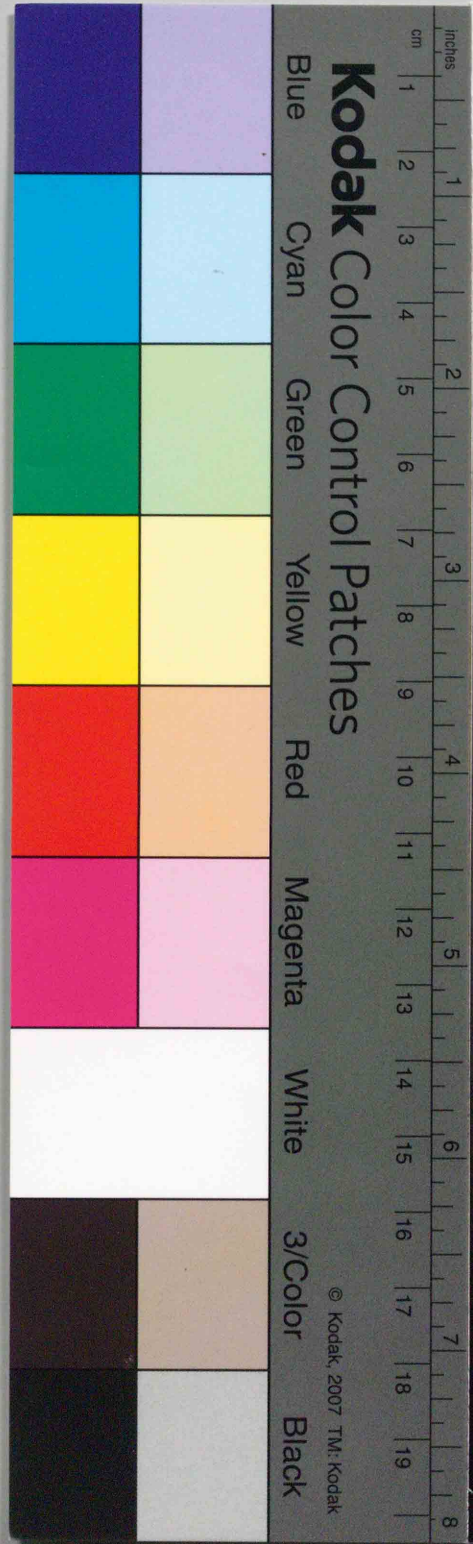
教科書文庫
4
293
41-1914
2000065451

著 郎三 收 間 猪

新 訂 中 等 地 理 學 教 科 書

外 國 編 上 卷

英 功 社 成 局 社 會 研 究 所



42844

教科書文庫

4
293.
41-1914
20000 65451



資料室

教科書文庫  
4  
293  
41-1914  
2000065451

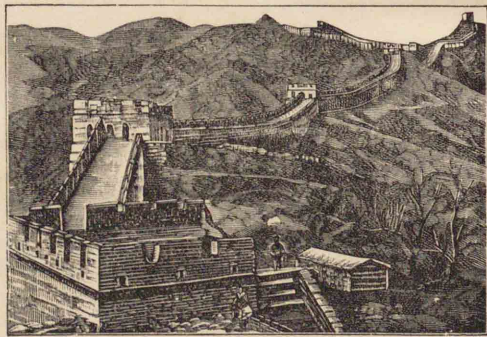
42  
293  
78

日二十月二十年三正大  
濟定檢省部文

訂 新  
書科教學理地等中

卷上 編國外

著郎三收間猪



京 東  
社 成 啓 社 會 式 株  
版 藏

例言

列國の形勢日に月に推移して止まず、明治四十四年本書第二回の訂正を施しし後、支那は新たに共和國を立て、制度を更革し、阿弗利加にてはマロツコ問題落着して獨佛領域の變更あり、バルカン諸國互に干戈を交えし結果は、土耳其領土の割取となりたるを以て、第三回訂正に著手せしに、忽然全歐大戰亂湧起し、施ひて植民地の攻略となり、我國もまたその渦中に投ずるに至れり。この結末は列國の形勢根柢より動搖すべしと雖、今日これを豫想すること難し、由て本書暫くこの戦亂に言及せず、本年八月以前の狀態を叙述するに止めたり。

大正三年十月下辭

編者識



新訂中等地理學教科書外國篇 上卷 目次

本邦篇 續 き

第十五章 關東州……………一

外國篇

第一編 亞細亞洲

第一章 總論……………七

第二章 支那……………一六

第一 支那本部……………一六

北部……………一六

中部……………一三

南部……………一三

第二	滿洲(東三省)	三六
第三	蒙古	四一
第四	新疆	四二
第五	青海	四三
第六	西藏	四三
第三章	支那に於ける各國の領地	四四
	關東州	四五
	威海衛	四五
	膠州灣	四五
	廣州灣	四六
	香港	四六
	澳門	四六
第四章	亞細亞露西亞	四六
第一	西比利亞	四七

第二	中央亞細亞	五
第三	カフガス	五九
第五章	印度支那	六一
第一	佛領印度支那	六三
第二	暹羅	六四
第三	緬甸	六六
第四	馬來聯邦及海峽植民地	六六
第六章	馬來群島(東印度諸島)	六六
第一	比律賓群島(北米合衆國領)	七
第二	ボルネオ	七二
第三	和蘭領東印度諸島	七三
第四	チモール	七五
第七章	印度	七五

第八章	イラン地方	八七
一	ベルチスタン	八九
二	アフガニスタン	八九
三	波斯	八九
第九章	亞細亞土耳其及亞刺比亞	九〇
第一	亞細亞土耳其	九〇
一	アルメニア	九一
二	小亞細亞	九二
三	シリア	九二
四	メソポタミア	九三
第二	亞刺比亞	九四
第十章	亞細亞地理括論	九六

新訂中等地理學教科書外國篇上卷挿圖畫目録

本邦篇續き

關東州

一	表忠塔	三
二	大連埠頭積荷と大豆集積	三
三	貔子窩鹽田の景及地圖	四
四	滿洲交通圖	五
五	撫順炭坑附近圖	六

外國篇

亞細亞洲

六	亞細亞洲の海岸距離及内地流域を示す地圖	九
七	亞細亞洲地形圖	一〇
八	亞細亞洲地形指示圖	一一

九	亞細亞大陸南北の斷面を示す	一一
一〇	歐亞大陸の等溫線圖	一四
一一	熱帶森林の景	一五
一二	凍土帯の景	一六
一三	西藏喇嘛	一七
支那		
一四	支那本部地形圖	二〇
一五	ヤク	二二
一六	大運河の景	二三
一七	黄河河道の變遷	二三
一八	支那の風俗(乗物)	二四
一九	水の爲めに作られし深谿(黄河)	二六
二〇	萬里の長城(八達嶺附近の景)	二九

二、	北京城	二九
三、	北京城外の停車場 及北京城壁の一部 風と人との爲めに作 られし谷(河南地方)	三〇
四、	揚子江沿岸地圖	三一
五、	湖南江西盆地圖	三二
六、	漢口日本租界護岸の景	三四
七、	巫峽の江流	三五
八、	苗族	三五
九、	珠江附近地圖	三六
一〇、	廣東港岸のジャンク船輻湊の景	三七
一一、	札幌と奉天との温度比較	三八
一二、	滿洲高粱畝	三九
一三、	滿洲の鐵道	三九
一四、	奉天市街	四〇
一五、	蒙古苦力磚茶を運搬す	四一
一六、	チチハル市街の景	四二
一七、	スエンヘデン氏肖像	四三
一八、	ポータラ丘上の達賴喇嘛宮殿	四三
一九、	張家口野外羊皮の乾燥	四四
二〇、	膠州灣地圖	四五
二一、	香港市街より港内 及九龍半島を望む	四五
二二、	西比利亞	四五
二三、	西比利亞犬橋	四九
二四、	西比利亞鐵道線路略圖	五〇
二五、	浦蘆斯德(西より東に向 ひ港内を望む)	五一
二六、	黑龍江口北岸の景	五二
二七、	コライエフ市の景	五三
二八、	浦蘆斯德附近地圖	五三
二九、	キルギス人水草を 追うて移轉する狀	五五
三〇、	露領中央亞細亞地圖	五五
三一、	外裏海地方沙漠の景	五七

五〇、	帖木兒の廟	五六
五一、	カフカズ地方	五六
五二、	カフカズ地方地圖	五九
五三、	バクトー噴油地	六〇
五四、	印度支那	六〇
五五、	印度支那地圖	六二
五六、	胡椒	六二
五七、	佛領印度支那	六二
五八、	暹羅人象と水牛とを 使役してチ ークの巨材を運搬せしむる景	六四
五九、	シユードゴン大塔	六五
六〇、	新嘉坡の埠頭と地圖	六七
六一、	馬來群島	六七
六二、	馬來群島地圖	六八
六三、	東印度のコ、椰子の林	六九
六四、	珈琲の花と實	七〇
六五、	マニラ麻	七〇
六六、	比律賓群島	七〇
六七、	フィリピン群島地圖	七一
六八、	サゴ椰子	七二
六九、	和蘭領東印度諸島	七二
七〇、	ポイテンブルグ植物園	七三
七一、	肉荳蔻	七三
七二、	印度	七三
七三、	セイロン島ト其近海地圖	七五
七四、	印度地形圖	七七
七五、	夏季西南季節風	七九
七六、	冬季東北季節風	七九
七七、	期中の雨量圖	七九
七八、	ヒンヅー種族	八〇
七九、	孟買附近沼澤の景	八〇
八〇、	黃麻	八一



三、	インチゴ	八二
四、	菩提樹と其氣生根の一部	八二
五、	佛陀伽耶の大塔	八三
六、	ベシアソル土人街	八四
七、	ダーヂリンよりヒ マラヤ山脈を望む	八五
八、	カシミル山羊	八五
九、	コロンボ港の防波堤の景	八六
イラン地方		
一〇、	イラン高原	八七
一一、	絨氈製織の圖	八八
一二、	英露協約―波斯に於ける勢力範圍の劃定	八九
一三、	亞細亞土耳其及亞刺比亞	八九
一四、	アララット山の遠望	九二
一五、	死海附近圖	九二
一六、	バグダード鐵道及 巡拜鐵道線路略圖	九三

一七、	棗椰子	九四
一八、	亞細亞阿弗利加 兩大陸の境界圖	九五
一九、	アデン港地圖	九五

挿圖畫目録終

新訂 中等地理學教科書 外國篇(上卷)

本邦篇 續き

第十五章 關東州

概説

位置  
面積・人口  
面積を長緯と  
略均し

氣

夏は東南風  
く黄海よ吹  
き冬は西北の  
乾風シベリア  
平原より來る  
こと多し

概説

關東州は支那滿洲の南端黃海と遼東灣との間に突出する半島にして、面積二百十九方里、人口四十九萬あり。その内四十五萬は支那人なり。氣候は滿洲一般と同じく、夏季は暑熱強くして降雨多く、冬季は空氣乾燥して寒氣酷しけれども、海に近きたため多少緩和し、海岸氷結すること稀なり。山は概ね禿嶺にして、農作物には大豆、高粱等あれども、産

産業

沿革

租借期限は露國租借の時より起算し二十五箇年にて大正十二年四月満期となれども日支兩國の協議により借り續ぐ事を得

統治

關東州の領主權は支那にあれども統治權は全く我にあり但し支那人の犯罪者はわが政府之を罰するを得ずかの國官吏に引渡す自由貿易  
自由貿易制度は中繼貿易又は通過貿易を目的とする所に施行して大に效力あり

出量多からず、沿海漁業の利稍多く、製鹽業有望なり。

○沿革及統治 日清戰役に、わが軍この地を占有し、後是を

還附したるに、明治三十一年に至り、露國は清廷に迫りて之

を租借し、旅順・大連を修築して東方の門戸となし、大いに滿

洲の經營を努めしが、明治三十七八年日露戰役の結果わが

國その權利を承け繼ぎ、關東都督府を置きて之を治む。その

統治は關東州のみならず、南滿洲に於ける鐵道及その沿線

各地に住居せる本邦人の保護取締に及び、鐵道守備隊の指

揮及支那地方官吏との交渉事務も亦都督の掌る所なり。

關東州は自由貿易地帯と定められ、輸入品は一切無税と

し、其境を越えて支那領に入る際關稅を課す。されど便宜の

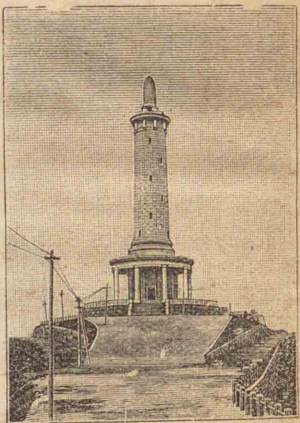
爲、支那の稅關を大連に設け、支那輸入品はここにて徵稅す。

都會

旅順 軍港 高港

大連

表 忠 塔 (りあに順旅)



都會 旅順は半島の南端に在り、關東都督府・旅順要港部を置き州の首府なり。灣内は東港・西港の二部に分れ、東港は要港とし、西港は貿易港とす。  
大連埠頭積荷 大豆の集積

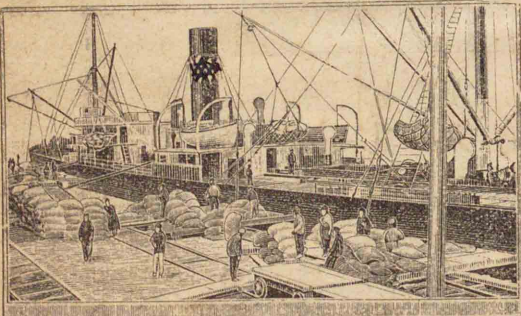
その灣口緊縮し、防備堅固なれども、東港は狭く、西港は淺きを缺點とす。

大連市街は大連灣の西南

岸に在り、市街の區劃は露國

時代の創設にかかり、其埠頭

は南滿洲鐵道會社にて増築



大豆の輸出

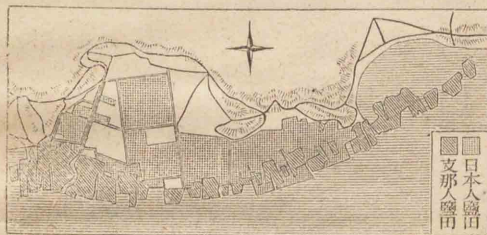
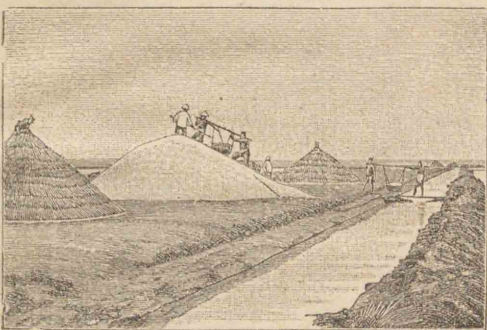
金州

普蘭店

貔子窩

南滿洲鐵道

鏡子窩鹽田の景及地圖



陸せり。

南滿洲鐵道

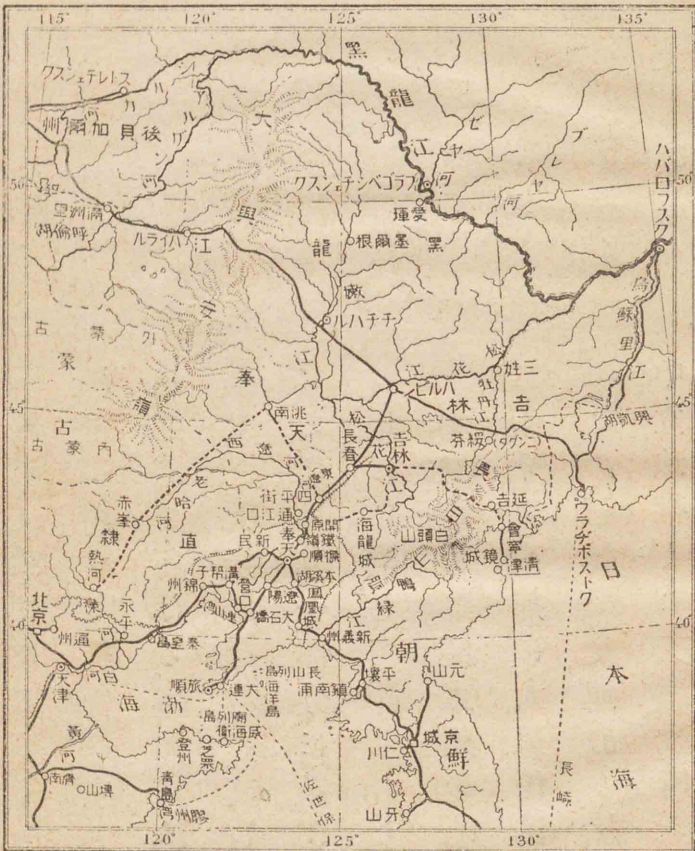
もと露國が東清鐵道支線として敷設せし

せし所にて、規模頗る大なり。滿洲の産物は鐵道便によりてここに集るもの多く、就中大豆・豆粕の輸出盛に、殊に近年歐洲へ向け大豆の販路開けしより埠頭常に大豆の山を築く。大連の北に金州市街あり。普蘭店は州の北境に位し、其西にアダムス灣深く澳入す。貔子窩は州の東境にあり、海岸遠淺にて、天日製鹽盛なり。日清・日露兩戰役共に、我軍此附近より上

吉林線

南滿洲鐵道會社

滿洲交通關



ものにして、長さ四百三十五哩(大連・寬城子)あり。之に附屬せる旅順線・營口線等の支線、並に安東・奉天間の安東鐵道を合せて、南滿洲鐵道會社の管理する所なり。この會社はわが政府及人民の共同出資よ

り成り、鐵道の運輸のみならず、線路敷地に於ける拓殖事業

停車場敷地に於ける市街の管理、並に撫順、烟臺の炭坑採掘

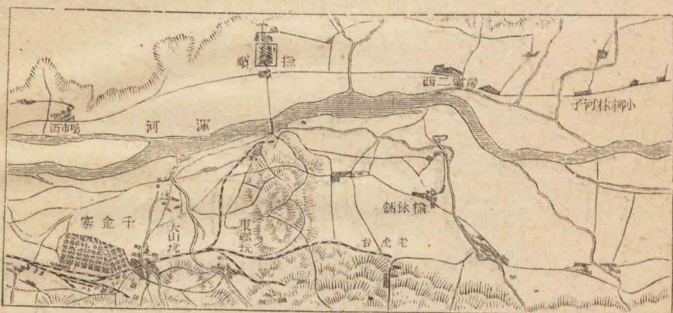
等極めて複雑なる事業を營み、わが國の滿洲に對する經營は、主としてこの會社を通じて行はる。撫順炭坑はわが國に比類なき大炭層を有し、其質良好、現今採掘せる所は、其一部分に過ぎざれども、滿洲各地に供給して餘りあり。

**中立地帶** 關東州の北に於て西海岸に蓋平、東南岸に大孤山港、中央に岫巖あり、この三地點を連ぬる線内は、日支兩國中立地帶とし、支那政府の行爲に頗る制限を附す。

撫順炭坑  
現時の採掘高三池炭坑より少しく多し

中立地帶

撫順炭坑附近



限を附す。

# 外國篇

## 第一篇 亞細亞洲 Asia

### 第一章 總論

**境域** 亞細亞洲は東半球の北部にあり、六大洲中面積最も廣く、北は北極洋に面し、東は太平洋に、南は印度洋に臨み、西はウラル山脈・ウラル河・裏海・カフカズ山脈・黒海・地中海等によりて歐羅巴洲と天然の界をなし、スエズ地峽を以て阿弗利加洲に連る。

露西亞にては、行政上の便宜より、ウラル山地を歐羅巴に入れ、カフカズ地方を亞細亞洲に屬せしめ、土耳其も亦其領土兩大陸に跨れども、之を區別することなし。地理上の區劃は必ずしも行政上の區劃と一致せず。

**境域**  
本洲は歐羅巴洲と接續して一塊の大陸をなすことをユーラシア大陸と呼ぶ  
Durasia  
地理上の區劃は必ずしも行政區劃と一致せず

面積・人口

本洲の南端は赤道を越え、北端は北極圏に入り、面積二百六十五萬方里、人口九億二千萬あり。

海岸

北極洋岸

北極洋岸は屈曲少く、四季大半氷結して、航行の便少く、その東端は幅僅に十四里のベーリング海峡によりて、太平洋に連る。

太平洋岸

太平洋岸にはカムチアツカ・朝鮮・印度支那の三半島あり。日本群島と馬來諸島とによりて、オホーツク海・日本海・東支那海・南支那海・ボルネオ海等を擁す。

印度洋岸

マラッカ海峡より西は印度洋にして、印度・亞刺比亞の二大半島突出して、ベンガル灣・亞刺比亞海を擁し、西方阿弗利加との間に細長き紅海を挟む。

西方に小亞細亞半島突出し、ボスボロス海峡を隔て、歐

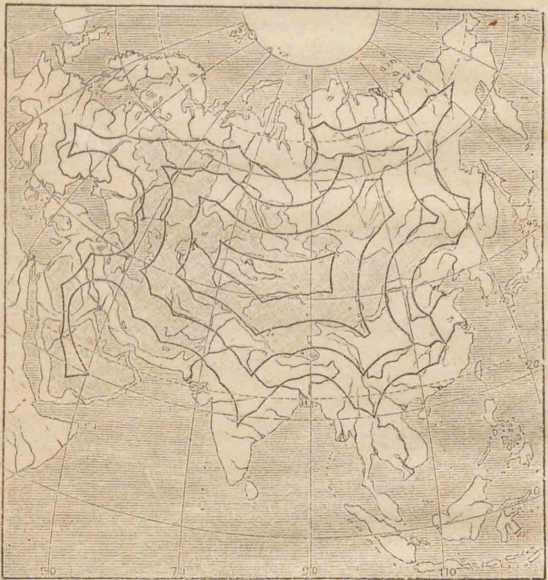
黒海・地中海岸  
内地流域とは其地の水、海に注がずして無口湖或は砂礫中に終る所をいふ

地形

海岸よりの等距線は五百キロメートル(約百二十五里)毎に一線を劃す陸内の陰影部は内地流域なり

西比利亞平原

示すを域流地内及離距岸海の洲亞細亞



羅巴に對し、以て黒海と地中海とを區別す。斯くの如く海岸屈曲ありて、その延長六千里に達すれども、陸塊大なるゆゑ、海に遠き所多く、隨て内地流域廣し。

地形

本洲の大山脈は大抵バミル高原より四方に向て分れ出で、河流の方向、平原の位置皆これによりて定めらる。

バミルの東北に天山阿爾泰山脈あり。なほ其東北にヤプロノイ山脈・スタノ

イ山脈等あり。此等山脈の北側は西比利亞平原にして、オ

プ・イエニセイ・レナの三大河北流して北極洋に注ぐ。  
Yonisei Lena

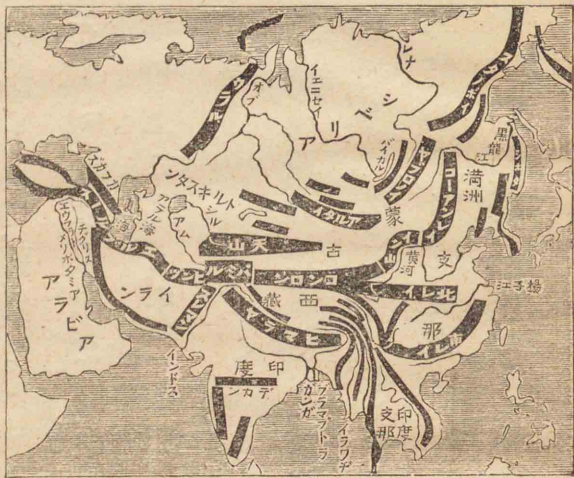
(一分一尺例比) 圖形地洲亞細亞



裏海以東、パ  
ミル・天山及阿  
爾泰山脈等の  
山地に至る間  
を土耳其斯坦  
平原となす。雨  
少く沙漠の地  
廣し、アム・シル  
の二大河其間  
を流れてアラ  
ル海に終る。  
Aral

トルキスタン平  
原

圖示指形地洲亞細亞



その右側に南嶺の丘地ありて、支那の南海  
岸に平行し、其間に黄河及揚子江流れ、殷富  
なる支那平原を作る。  
Nanling Yangtze-Kiang

バミルより  
正東に崑崙山  
脈走り出で、進  
みて北嶺とな  
り、其左側の一  
支は、陰山興安  
嶺となりて、蒙  
古高原の東南  
縁をなし、なほ



示す面断の北南陸大亞細亞

滿洲平原

日本海の岸なるシホタ山脈Sikhotaと興安嶺との間に遼河及黒龍江の流域なる滿洲平原あり。支那・露西亞の兩國に分屬す。

蒙古高原は崑崙・阿爾泰兩山脈の間に挟まれ、大部分は戈壁沙漠にして、西部にタリム河の盆地あり。

バルミより東南に向ひヒマラヤ山脈走り出で、群峰高く雪線の上に聳え、中に世界最高の峰あり。山脈の北には西藏高原あり。

西藏高原の東部より、數條の平行山脈、ヒマラヤ山脈の東端を切りて南に走る、これを横斷山脈といふ。その末、手指狀に擴がりて、印度支那半島に入り、メコン・イラワヂ・サルウイ等の長流其間を流れ、河谷に沃野多く、中指は伸びて、馬來半島となる。

西藏高原  
ヒマラヤ山脈  
中の最高峰  
パレスト峰  
一八四〇米  
一九一七二尺  
印度支那半島  
馬來半島

印度平原

ヒマラヤ山脈より流出する、ブラマプトラ・ガンガイ・インドスの三大河の流域は、山脈の南麓にて豐饒無比のヒンドスタ

デカン高原

ン平原を作り、なほ其南はデカン高原となる。

西南亞細亞

ハミルより西南に向ひて、スレイマン山脈出で、西に向ひてヒンヅークシ山脈・エルブールズ山脈出で、これ等山脈以外の地は、イラン・小亞細亞・亞刺比亞等の高原、及チグリズ・エ

イラン高原  
小亞細亞高原  
亞刺比亞高原  
メソポタミア平原  
島嶼  
山脈高原河流平原の一覽表を作れ

ウフラト河の作れる、メソポタミア平原となる。

大陸を離れて、日本群島・比律賓諸島等數箇の弧を畫きて本洲の東南に懸り、スマトラ・ジャバ等の諸島はなほ其南に於て一條の弧をなし、何れも火山多し。

湖には世界最大の裏海あり。其水面は外洋面よりも八十六尺低く、アラル海・バルハシ湖等と同じく、鹹水にして外洋

湖水は上流より鹽を流し來り

て湖海に注ぎ而して純粹の水のみ蒸發するゆゑ無口湖または海中には鹽分次第に濃厚となる

氣候生物

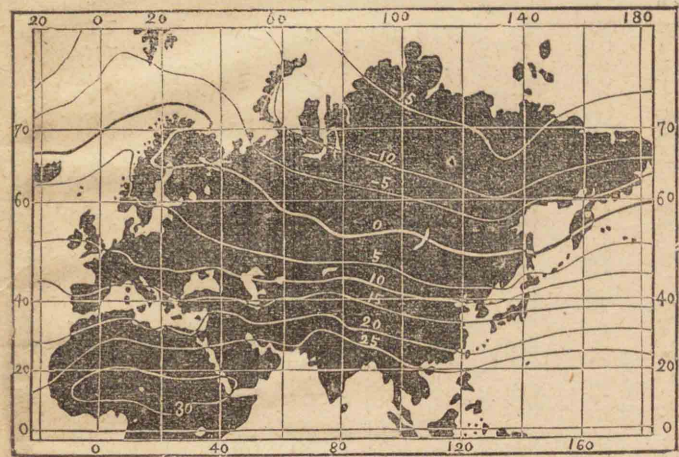
熱帯各地方それぞれ特有種あり印度支那の椰子樹、東印度諸島のココ椰子、印度の菩提樹、亞刺比亞の棗椰子等これなり亞細亞洲の内部及東岸の地方は歐亞大陸の西岸なる歐羅巴洲内の同緯度の地方に比較すれば一般に温度低さを見るべし

に通ぜず。バイカル湖は本洲最大の淡水湖にして、其水流れてイェニセイ河となる。湖底頗る深し。概ね出口なき湖沼は鹽分を含み、出口あれば淡水なり。

氣候生物

南部印度洋岸の諸國は暑さ強く、雨量多く、椰子・檳榔樹・チーク、其他の樹木密生し、蔓生植物これに纏ひて、猿猴類の棲息に適せしめ、また虎・豹・犀象等の野獸、孔雀・鸚鵡等の美禽、蟒蛇・鱷魚等の爬蟲あり。農作物には米・綿・麻・藍・甘蔗・煙草・香料等を産す。東部太平洋岸の日本・支那等は氣候佳良に

歐亞大陸の等温線(均平年)



熱帯森林の景



して、落葉潤葉樹及針葉樹繁茂し。米・麥・茶・桑等を産し、西部地中海岸もこれと大差なく、葡萄・レモン等善く熟す。

西藏及蒙古高原は、海風を受けざるゆゑ、沙漠草原多く、馬・羊・駱駝・犛牛等の外、獸畜少し。

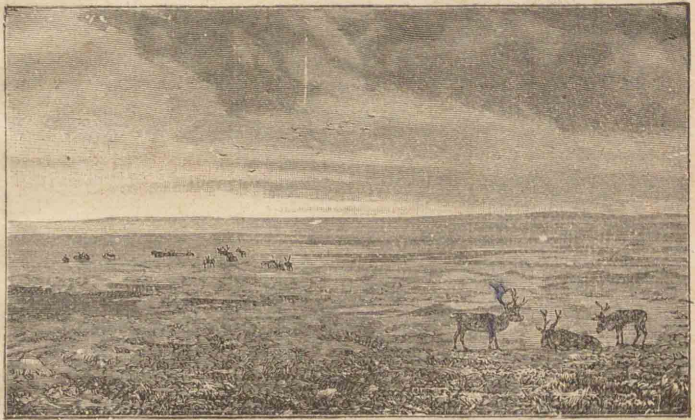
北極洋岸の地は終歲結氷し、夏季數月間地表數尺のみ融解す。由て凍土帯の



住民

氣候風また信風  
ともいふ夏は海  
上より冬は内陸  
より吹き半年毎  
に風向正しく相  
反す

景の帶土凍



稱あり。矮小なる樹木及蘚苔のみ  
生じ、土人馴鹿を使役して、此間に  
住み、漁獵に従事す。

一般に歐亞大陸の東岸は西岸  
よりも温度低く、大陸の内部は海  
岸に比ぶれば、冬夏温度の差大な  
り亦太平洋及印度洋の沿海地方  
は、氣候風正しく行はる。

住民 人口頗る稠密にして、住

民は蒙古人種多數を占め、日本人  
支那人、韃靼人等これに屬し、馬來群島には馬來人種住居す。  
印度人はカフカズ人種に屬すれども、皮膚黒く、外貌頗る異

宗教

教育

邦國

喇 藏 喇 西



に中此てに筒文經はるせに手の僧  
轉廻其むしせ轉廻を之れ入を文經  
す信とし多徳功どほき多の數度

なり。住民の大部分は農業に従事し、韃靼人は遊牧を事とす。  
商工業は本邦以外は歐洲人の力を借ること多し。

宗教は東南部諸國に佛教行はれ、西藏蒙古には其一派喇  
嘛教あり。印度はヒンヅー

教最も盛に、土耳其人、波斯  
人は回教を奉ず。教育は我  
國を除くの外、見るに足る  
ものなく、ただ支那は近年  
稍進歩せり。

邦國 本洲中實際の獨立國は、本邦及支那、暹羅の三國に  
過ぎず、其他は歐羅巴諸強國の領地、保護國若くは勢力範圍  
に屬し、獨立國にても、支那、暹羅等は往々主權を制限せらる。

## 第二章 支那

支那は上世夙に人文發達せしが、革命屢起りて帝統を更ゆること二十餘代、明治四十五年清朝亡び、國體また變じて、共和政治となり、國號を中華民國と稱す、我國と境土相接し、文字を同くし、商業取引多く、極めて密接なる關係あり。

**境域** 西と北とは亞細亞露西亞に境し、南は英領印度佛領印度支那に接し、東は黃海、東支那海、南支那海に臨み、その一部はわが朝鮮半島に連なる。面積凡そ七十萬方里あり、わが國の十六倍半に當る。

**沿岸** 海岸の延長千里に過ぎず。面積に比して少なし。揚子江口以北には、山東遼東の兩半島相對して渤海灣を抱き、

境域

沿岸

地形

西藏高原

蒙古高原

滿洲平原

支那本部

半島部は屈曲多けれども、その他は概ね平直なる沙泥の濱なり。江口以南は海岸鋸齒の如く、浙江灣、舟山群島、閩江口の福州灣、珠江口の廣東灣等あり。その他島嶼、港灣頗る多し。最南部には雷州半島と海南島とに擁せられたる東京灣あり。

**地形** この國の地形おのづから四部に分る。西藏高原は西部に在り、海面上平均一萬二千尺ありて、わが富士山の高さに均しく、蒙古高原は北方に横はりて、その西部は新疆に連なる。東北に滿洲平原ありて、黑龍江の支流なる松花江及遼河の流域に屬す。次に最も重要なるは支那本部にして、崑崙の主脈其中央を貫きて、秦嶺、伏牛山等（總稱して北嶺といふ）となり、その北に賀蘭山、陰山等分れ出でて本部の北境を限り、南には南嶺ありて、南海岸に沿へる丘地帯をなし、これ等三山脈の

北支那  
中支那  
南支那

氣候

間に黄河・揚子江及珠江(西江)の三大河流れ、本部を北・中・南の三部に分ち、氣候・天産・住民の生業等著しく異なり。



支那本部地形圖

1:30000000

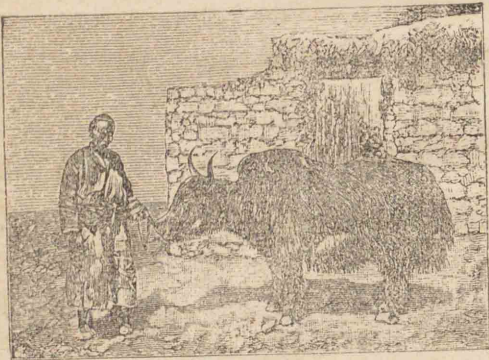
氣候 南部は

北回歸線其中央を貫く半熱帶若くは熱帶にして、榕樹・椰子等繁茂し、中部は北緯三十三度を標準緯線とす溫和なれども、我國よりは温度高し。何れも夏季颶風屢起る。北部標準緯度及滿

洲蒙古は大陸氣候に屬し、寒暑共に烈しく、滿洲は夏季一ヶ月許降雨頻りにて、穀物善く熟すれども、蒙古は雨量極めて少なく、草原・沙漠大部分を占め、西藏は土地高きゆる氣温頗る低し。

産業

ヤクは西藏に於て甚だ必要なる獸にして力役、乗用に使用し、肉は食用に供す



産業 支那本部は古來農を以て主

生業とし、中部・南部は米・棉・麻・茶・桑を産し、北部は麥・粟・大豆・高粱及棉を産す。鐵鑛及石炭は南北各地に産し、その量近年次第に増加し、石油・錫・アンチモンもまた多し。牧畜は蒙古及新疆に行はれ、牛・馬・羊・豚・駱駝・犛牛等を飼ふ。工業は中部及南部に盛にして、蠶糸・絹織物・綿糸

對支貿易各國中貿易額最も多きは香港なれども其産品は極めて少なく大部分は中繼貿易なり其支那へ輸入する商品の約半額は印度産にして支那産品また三四割に幾し

綿布・茶・陶器・麥稈・眞田等の製造盛なり。外國貿易は揚子江下流の上海、中流の漢口、南部の廣東、北部の天津、滿洲の大連を盛なりとす。輸出品は生絲・茶・大豆・豆粕・絹織物最も多く、輸入品は綿布・綿絲等多し。貿易の對手は英吉利・印度・北米合衆國及本邦を主要なるものとし、中にも輸出入額最も多く、且つ最も進歩著しきは本邦にして、棉花・大豆・豆粕を輸出し、綿絲・綿布・銅石炭・砂糖・燐寸・水産物等を輸入す。

交通

揚子江の水漲ればその一部を湖に分ち江水涸るゝ時は湖よりこれを補ひ下流をして水量の變化

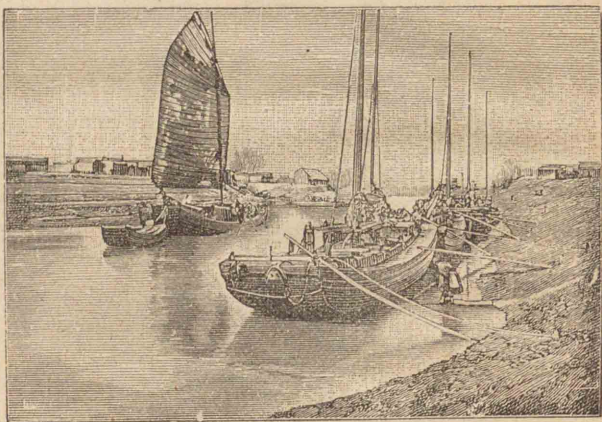
揚子江は支流に富み、洞庭湖・鄱陽湖等附屬して水量を調節し、大船は溯りて河口より九百五十海里の宜昌に達すべし。珠江はその主流を西江といふ。また支流に富み、航行の便あり、之に反し、黄河は河底淺く、水勢強くして、水運の

甘肅省長城

運河

少なからしむ旅行に際し北部は車馬を用ひ中部南部は多く船に依る古來南船北馬の稱あり

大運河の景

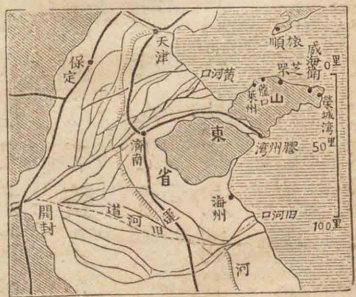


歐洲諸國の汽船會社によりて營まる。

鐵道は北京・漢口間の京漢鐵道と、北京より天津を經、奉天に達する京奉鐵道とを大幹線とし、一方には南滿洲鐵道に

便少なし。有名

なる大運河は浙江省の杭州府に起り、揚子江・淮河・黄河・白河の四大川を



黄河河道の變遷

連絡して天津に達し、支那船の往來に便す。沿海及揚子江航路の運輸事業は、招商局・日清汽船會社及

鐵道

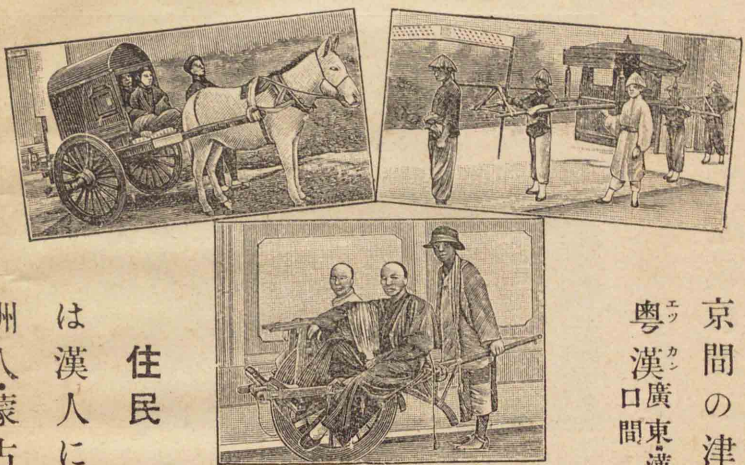
鐵道開通すれば内地の産物は廉價にて開港場に運搬し輸出を増しまた需要品を廉價にて購求することを得べく由て外資を借入れても敷設すること此國の急務なり

支那疆域内の鐵道總哩數六千哩

住民

人口、種族この國農業を主とする故都會の住民少なけれど今後商工業の發達に隨ひ増加すべし

支那の風俗



よりて露西亞の所有せる東清鐵道に接續し、一方は天津・南京間の津浦鐵道に連なる。これに聯絡せる

京間の津浦鐵道に連なる。これに聯絡せる  
粵漢、廣東漢、川漢、成都漢、及濟南・西安間の鐵道は、

その一部開通し、或は工事中なり。

なほ山東鐵道・雲南鐵道、滇越鐵道等あり。これに北京・南京その他各地の

短距離線を合せて約そ六千哩あり。なほ歐米諸國競うて資金を投

じて鐵道を敷設せんとす。

住民

人口四億二千萬あり、其九割五分は漢人にして、支那本部に住居し、その他滿洲人・蒙古人・西藏人等あり。また新疆省には

土耳其人住居し、西南地方には苗族住居す。

此國戶籍簿の設不十分にして、人口確かならず、實際は三億三千萬を出でざるべし。都會の人口も亦百萬以上のものなきが如し。

漢人は夙に黄河の沿岸に發達して後全國に分布し、頗る高度の進歩をなし、中華中國を以て自から居りしが、次第に文弱に流れ、北方強胡の侵入を禦ぐこと能はず、屢々その征服する所となれり。然るに征服者また毎に漢人に同化して剛毅朴訥の氣風を失ひ、遂に自滅するに至る。

上流は儒教を奉じ、佛教・道教もまた行はると雖、概して宗教の感化に乏しく、士人は閑雅にして文藻に富み、商人は機敏にして理財に長ずれども、一般に利己主義に偏し、國家的の考少なく、向上進取の氣風を缺く。されど世界文明の流潮

沿革

宗教 風俗 教育

阿片の吸飲は禁止し罌粟の栽培阿片の輸入は制限せらる

はこの國人をも覺醒せしめ、自疆の策を講じ、阿片吸飲の害は既に著しくこれを防止し、學校を各省に設け、留學生を外國に出し、民間には製造工業漸次發達し、健全なる政治思想もまた生ぜんとす。

政治

政治 明治四十五年二月革命の變起り、清朝亡びて共和政體となり、議會を開設し大總統及副總統を選舉したれども、憲法未だ制定せられず、議會は解散せられしきにして、現今共和の實なく、大總統の獨裁政治なり。内閣は總理大臣これを統括し、わが國の現制と同じく九省の別を設く。

兵備

兵備は革命前北洋軍六箇師團、南洋軍二箇師團を以て主力となせしが、爾來南洋軍は滅亡し、北洋軍も實力頗る減ぜしが如し。爾來兵權は中央に收められたれども、各省長官を將軍

Kobanoe

地方制度

本部 滿洲  
新疆 蒙古  
西藏 青海  
二十二省以外の長官  
熱河都統  
察哈爾都統  
綏遠都統  
烏里雅蘇都統  
阿爾泰辦事長官  
青海辦事長官  
西藏辦事大臣

となし、その指揮權を委ぬ。また海軍は極めて微力なり。

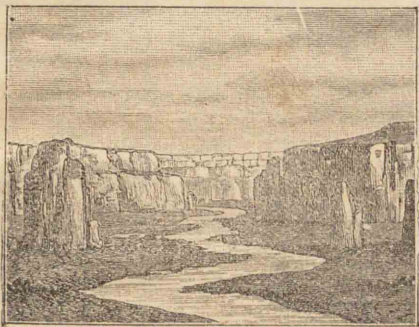
地方制度は、支那本部を十八省に、滿洲を三省に分ち、之に新疆省を加へて二十二省となし、將軍を置きて之を治む。この外、長城以北の各地には新たに都統を設け、蒙古、青海、西藏には辦事長、辦事大臣若くは將軍等を置くと雖、蒙古は獨立を宣言し、露國に恃む所ありて、民國の節制に従はず、西藏は從來達賴喇嘛ありて自治を營みしが、近年英國の討伐を受け印度政廳の監視嚴しく、民國の威力及ばず。

この國の現状、歲入つねに歲出を償ふに足らず、外國債巨額に上りて償還の方法確立せず、民間には通貨缺乏して商取引圓滑ならず革命以來民心動搖し、頗る前途を懸念せしむ。

地方誌

第一 支那本部

面積二十五萬方里あり。分ちて左の十八省となす。



(河黄) 谿深しれら作にめ爲の水

北部

直隸

山東

河南

山西

中部

陝西

甘肅

安徽

江西

南部

福建

廣東

廣西

雲南

北部

湖北

湖南

貴州

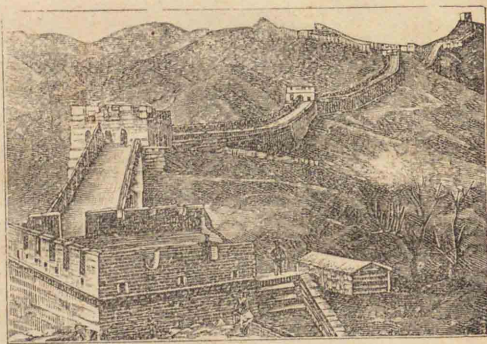
四川

平原の東に丘陵性の山東半島あり、北境に近く萬里長城あり。住民一般に農業牧畜に従事し、近年棉の耕作増加せり。

北部 地質 上世の支那人は土を以て悉く黄色なるものと考へ而して土は五穀を生ずる源なるゆゑ黄色を以て最も尊き色となせり

區劃

景の近附嶺邊(八)城長の里蓂



直隸省

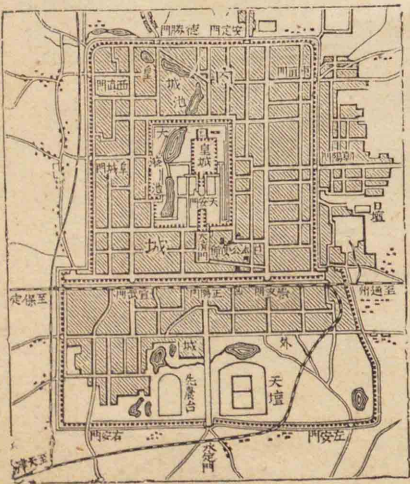
直隸省

北京

長城は渤海岸の山海關より甘肅省の嘉峪關に至る、延長八百里あり、戰國の代始めてこれを築き、秦始皇帝の大修築以來幾度か補修して、匈奴を防ぎたれども、後世その守を失ひ、北方種族の爲めに侵入せらるるに至れり。

北部は一般に樹木乏しく地層概ね黄土よりなり、肥沃なれども、粗鬆柔軟なるを以て、水力容易にこれを穿ちて、懸崖深谿を作り、河水爲めに黄濁す

にして、平野の中にあり、鐵道四方に通ず。市街は方形の廓壁を繞らし、内城、外城の二部に分れ、



城京北

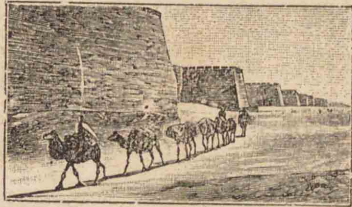
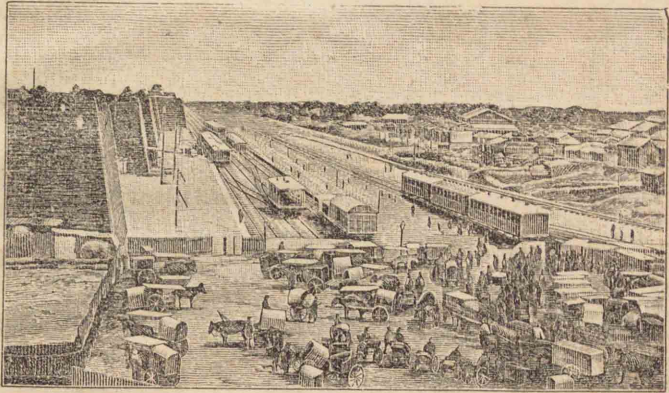
天津  
大沽

保定府

山東省

濟南府  
曲阜

北京城外停車場



北京城壁の一部

内城には舊皇城・官衙・各國公使館等あり。外城は商業區なり。

人口約そ七十萬あり。

天津は白河河口の大沽

より五十海里の上流に

あり。外國貿易盛にして、直隸將軍ここに居る。保定府はもと省の首府たりし所なり。

山東省 丘陵地の半島部と黄河

下流の平地とより成る。氣候佳良、人烟稠密、絹織物・麥稈眞田等を産す。濟南府は省の首府にして、曲阜には孔子を祀れる

芝罘

山西省

太原  
山西の鐵と石炭とは埋藏量無限にて世界の需用に應ずるを得と稱せらる

河南省  
開封府

河南府

陝西省

西安府

大成殿あり、芝罘は北岸の貿易港にて、滿洲との取引多し。

山西省 主要部は、黄河の支流汾河の流域に屬し、豊富な炭田ありて、漸次採掘せられ、鐵鑛亦多し。首府を太原といふ。

河南省 首府開封府は、宋代の汴京

にして、黄河氾濫の衝に當り、屢々水害を被る。河南府は洛

風と人ととのために作られたる谷 (河南地方)



古來數千年間通行せる車轍馬跡は地盤を穿ち砂塵は風の爲に運び去られて自然に數丈の切通しを作れり

水の陽にあり、由て洛陽と稱す。東周・後漢等の帝都たりき

陝西省 主要部は渭水の盆地にして、山脈環繞の中に沃野あり、所謂關中の地なり。首府西安府は、古の長安にして、前



甘肅省

中部

揚子江の一支流  
よく二千餘萬の  
住民を養ふ

漢及唐代の國都たり。周の鄠京、秦の咸陽皆その傍にあり。

甘肅省

首府を蘭州府といふ。

Langchuan-fu

中部

大部分は揚子江の流域にして、一部は淮河の流域に屬し、北嶺と南嶺とは、江を挟みて東西に走り、各支脈を出して支流域を區劃す。上流に四川高原あり。岷江、嘉陵江、鴉龍江その間を流れ、倍陵江は貴州省を流れ、湘江、資江、沅江は洞庭湖に落ちて、湖南省の盆地をなし、贛江は鄱陽湖に注ぎて、江西省の盆地をなす。漢江は湖北省の平野を貫流し、安徽、江蘇の兩省は江、淮間の低地を



占む。棉花の栽培及蠶絲絹織物、茶、陶器等の製造盛なり。

江蘇省

上海、吳淞

上海縣城内及城外支那街を合すれば上海の總人口百萬に幾し

蘇州府、江寧府

鎮江

江蘇省

Kiangsu

Shanghai

Wusung

上海は揚子江口の吳淞より、黃浦江を遡ること十三海里にあり。その居留地は諸外國の管理に屬し、人口六十五萬(支那街を除く)あり、綿絲紡績工場多く、生絲の輸出わが横濱に次ぎ、一般支那貿易の四割餘は、この港の中繼を経て行はる。蘇州府は省の首府にして、絹布の産を以て名高し。江寧府は南京と通稱す、古來數回國都たりき。鎮江は大運河の揚子江に會する所にあり。

浙江省

杭州府

Hangchow

浙江の河口を錢塘江と稱す

安徽省

Anhui

Nanking

寧波、温州

江西省

Kiang-si

Kankiang

Nanchang

Kingt-ching

南昌、九江、景德鎮は有名なる陶器の

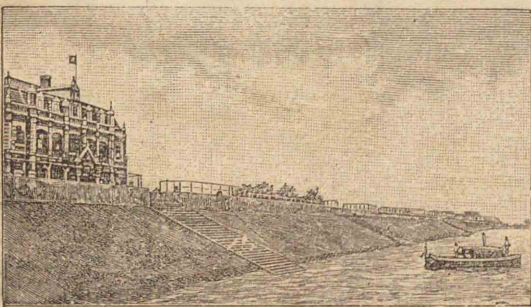
我國の對  
自之西地  
舟山列島  
の貿易あり  
山々  
北の交通  
九江附近  
の貿易あり  
景德鎮  
の貿易あり  
三度出入

產地なり。



湖北省 漢江の揚子江に合する所に、首  
府武昌開港場漢口及工業地漢陽の三市鼎  
立す。鐵道南北に通  
じ、水陸運輸の交叉  
點にして、古は『九州の會』、今は『支  
那の心臟』を以て呼ばる。漢口は磚  
茶の輸出多く、漢陽には製鐵所銃砲  
製造所あり。附近の大冶鐵山よりは  
鑛石をわが製鐵所に供給す。宜昌は  
航洋汽船航路の終點にして、その上  
流は、巫山三峽の險となる。

漢口日租界護岸の景



漢口附近に於て、江水は冬季洪水し、夏季増水し、その水面差五十尺に達す由て護岸工事の必要あり

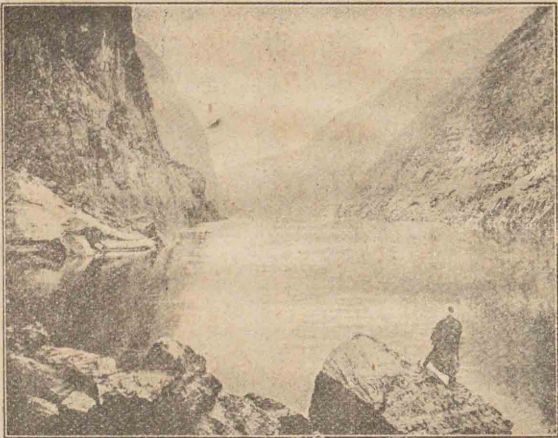
湖北省  
武昌、漢口、  
漢陽  
馬蹄條約を南にし  
夕陽を  
沙市  
宜昌  
重慶  
夔州  
巫山  
夔州  
夔州

大冶  
宜昌

湖南省

長沙  
湖南の米産額五  
千萬石略わが國  
の産額に均し諺  
に曰く湖南稔ら  
ざれば天下飢ゆ  
と  
岳州

巫峽の江流



湖南省 湘江に沿ひ、首府長沙あり。その南なる湘潭は藥種商業を以て有名なり。洞庭湖の流出口に開港場岳州あり。省内の米産支那各省に冠たり。またアンチモニーを産し、江西省萍郷の石炭も主として本省を經て輸出す。  
苗族住居す。首府を貴陽

貴州省

貴陽府

四川省

蜀道の難きは天に昇るよりも難しの語あり  
揚子江の上流を大金沙江といふ

支那最南  
未開地

資江  
中央ヲ流シ  
衡山  
五岳ノ一

陽江支脈四ノ流ハ以テ四川を  
四川省 古の巴蜀の地にして、  
四方山岳を繞らし、交通不便なる  
高原なれども、首府成都附近は土  
族



苗族

他の三大川と共に省内を流る、故四川省と名づく

成都  
重慶

南部

地平坦にして岷江の支流網の如く通じ、四圍の山腹水涯に至る迄、開墾して寸地を残さず。重慶は嘉陵江口の開港場にて、省の門戸に當る。  
南部 南嶺の外斜面なる丘地及珠江の河谷を含み、西方には横斷山脈と南嶺と結合せる雲南高原あり。半熱帶性にして、甘蔗及柑橘の類善く熟す。

福建省

泉州南港場

福州府

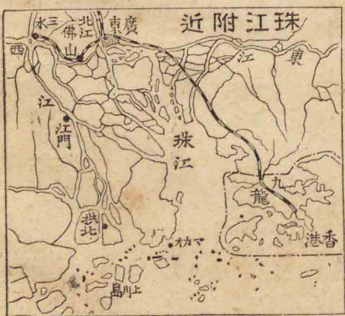
厦門

福建省 臺灣の對岸にあり。わが領土防禦の必要上、支那政府をして不割讓を約せしめたる地なり。首府福州府は閩江の下流にあり。厦門は臺灣に對する重要貿易港なり。  
Amoy (11)

廣東省

Kwangtung

首府廣東は珠江の三角洲上



人口九十萬或は百二十五萬と稱す  
外人輸入品より、主要貿易品、ヨリテ外國貨に

廣西省 珠江上流

桂林府

南寧

雲南省

雲南府

個舊の錫産額千萬兩を超ゆ

大理石の産地

廣東東岸の江船輻湊の景



にあり。南部地方第一の貿易港にて、生絲の輸出多し。香港の對岸九龍との間に新に鐵道を通じ、且つ船舶の交通絶えず。汕頭は省の東端にある開港場にて、附近砂糖の産出多し。  
廣西省 首府を桂林府といふ。西江省内を流通し、中流に開港場梧州あり。

雲南省

Yunnan

大部分は珠江の上流にありて、英領緬甸及佛領東京に接す。錫の産出多し。首府雲南府は滇池の傍にあり、鐵道東京に達し、佛國の勢力次第に本省に加はらんとす。大理府は洱海附近にあり、良質の石灰石を産す。  
地名に因みて大理石と名づく

### 第II 滿洲(東三省) Manchuria

#### 滿洲位置

奉天の寒暑共に  
札幌より烈しき  
を見よ

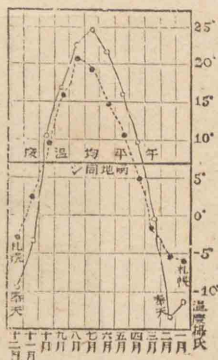
#### 氣候

海陸性

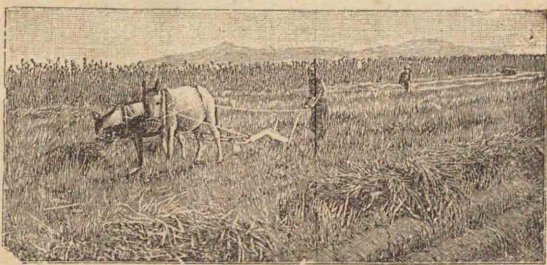
産業  
滿洲大豆の大發  
展

住民  
概算千六百萬

較比度温のと天奉と札幌



滿洲は支那の東北隅を占め、わが朝鮮と露領西比利亞とに接す。黑龍江及其支流松花江は北半を流し、南部の水は遼河によりて渤海灣に注ぎ、平野廣く面積六萬方里あり。氣候大陸性にして寒暑の差著しく、夏季は豪雨あり、道路不良なれども鐵道及水運の便具はり、大豆・高粱・粟・小麥等の耕作年々盛となり、隨て北部には麥粉南部には豆油・豆糟の製造行はる。住民は土著の滿洲人スツングール却て少く、山東地方より移住せし漢人多し。



滿洲高粱畝

#### 行政區劃

門戶開放機會均等とは特に或る國に限り貿易、關稅、企業等の便宜を與ふるこ  
となく各國均一  
同等に取扱ふな  
いふ、なほ此事  
に關し第八頁  
イラン地方の條  
を見よ

#### 奉天省

奉天・遼陽  
開原・昌圖・鐵  
嶺・通江子・營口

滿洲を分ちて奉天・吉林・黑龍江の三省となす。由てまた東三省と呼ぶ。清朝時代に於て政府は歐米諸國に向て門戶開放機會均等を宣言し、各國は北米合衆國の提議を容れ、勢力範圍の撤去を約すれども、露國は條約により、北滿洲に於て、鐵道の敷設その他各種の特權を有し、わが國もまた南滿洲に於て、露國より繼承せる各種の權利を有す。南滿洲と北滿洲とは吉長鐵道線の北に於て、これに平行して一線を劃し、以て略ぼその境となし、日露協約によりて兩國相侵さざるを誓へり。

奉天省一名盛京省 奉天府は遼河流域の平野に位し、清朝祖

先の廟墓あり。安東は朝鮮の境に立ち、遼陽は南滿洲鐵道に沿ひ、共に重要市場なり。奉天の北なる開原・昌圖は大豆集積

本旗湖川支那煙山灰  
 煙山灰  
 大石橋  
 錦州府

中等地理學教科書 上巻

鐵嶺は鐵道と遼河との便を兼備せる最重要地、通江子は遼河水運の終點なり

錦州府

新民府

吉林省

吉林

間島 露前より日露戰役前に於ける北滿洲に於ける小多の耕作が大發達するに對し、但復しては、我國を見るに對し、原料供給地となす

街路の大商牌と布店とは支那市街の特色なり



街市天津

これを豆滿江流域の間島に延長する計劃あり。間島はもと清韓兩國間の中立地たりし所にして、朝鮮農民の移住せるもの多く、農産饒なり。哈爾濱は松花江に臨み、東清鐵道本支線の分岐點に位し、水陸運輸の便頗る宜し。市街は鐵道附屬

の市場、鐵嶺及通江子は、遼河水運の要地にて、河口左岸の營口は、豆油の製造大豆、豆糟(餅豆)の輸出盛なり。遼河以西は日露兩國の勢力の外に在り、錦州府は連山灣に近く、新民府は遼河の右岸に位し、共に京奉鐵道沿線の商業市なり。

吉林省 首府吉林は松花江畔にあり。寛城子驛より吉長鐵道を通じ、なほ

地の名の下に露國の管轄に屬す、製粉工場多し。

黑龍江省 首府を齊齊哈爾といふ。松

花江の一支嫩江の傍に在り、上流に黑爾根あり。黑龍江畔の愛琿は露領に對する重要地點なり、附近所々に金を産す。

愛琿 (一名黑龍江城)

蒙古 苦力磚茶を運搬す



第三 蒙古

Mongolia

戈壁沙漠によりて二分せられ、漠南を内蒙古、漠北を外蒙古といふ。外蒙古の庫倫には喇嘛寺あり、其大喇嘛は蒙古の獨立を宣言し、政廳を置



チチハル市街

手記... 朝鮮... 遼東... 鐵嶺... 錦州... 遼河... 通江子... 鐵道... 水運... 商業... 農業... 人口... 面積... 資源... 交通...

新疆

く。國境に賣買城あり。露領キアフタと相對し、磚茶その他の貨物を駱駝に積み來り、西比利亞の毛皮と交易す。

第四 新疆 Sinkiang



像官氏ンゲンソエス

蒙古の西に連なる高原にして、天山によりて南北二路に分たる。天山北路は一に準噶爾といふ。伊犁河西に流れ、露領と交通の便多し。首府迪化府に新疆將軍駐在す。天山南路はまた東土耳其斯坦と稱す。塔里木河の巨流ありて、羅布泊に吸収せらる。此地方一帶近年瑞典人ヘデン及英佛露諸國人の探檢によりて頗る明白となり、古代に於て、農業、牧畜割合に進歩せしことを知るに至れり。

迪化

羅布泊は中央亞細亞の無鹽湖にあり、其の湖底に古來の鹽澤あり。昔は湖が干涸び、鹽澤のみにて、今則ち水が漲り、湖澤となり、其の間に鹽澤の跡を認め、昔の湖の位置を知るべし。

青海

第五 青海 Kokonor

青海と稱する大湖あり、一の内地流域をなす。

第六 西藏 Tibet

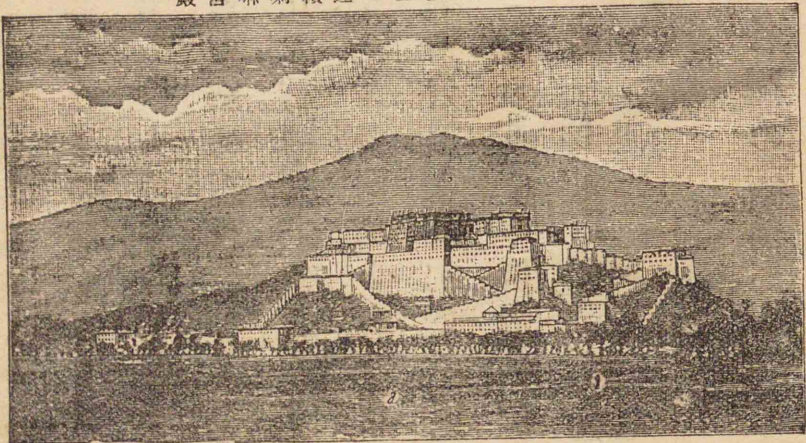
喇嘛教の主長達賴喇嘛首府

拉薩なるポータラ山の寺院に

居住して、宗教政治の權を握り、容易に外國人の入國を許さず。犛牛毛皮及羊毛を産す。印度の境に貿易場亞東あり。

概括 支那は世界最多の住民を有し、その需要する所多く、

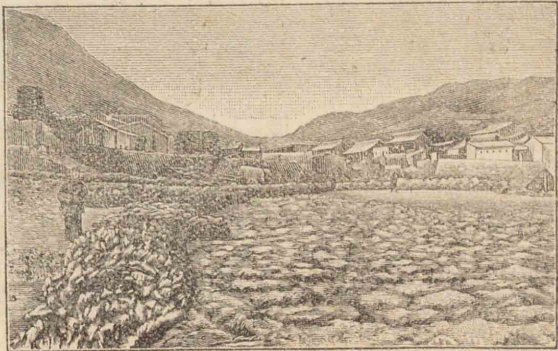
殿宮喇賴達の上丘フタロボ



亞東 概括

西藏 拉薩

張家口野外羊皮乾燥



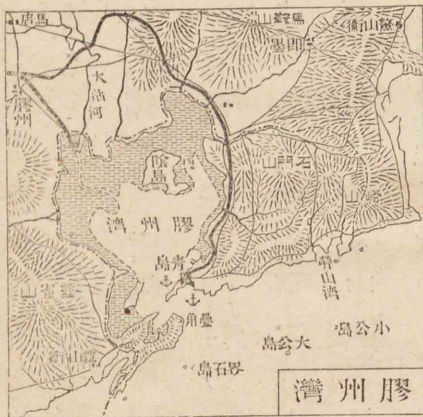
濟上の連鎖を固くせざるべからず。

### 第三章 支那に於ける各國の領地

土地廣くして未發の富源少からず。由て歐米諸國はこの國を以て最上の市場となし、國人の好意を得るに汲々たり。わが國は距離最も近く、歐米諸國に比し言語文字の上に便宜多く、商業上至大の關係を有し、わが國製造工業の發達は、必ずこの國の需要に俟つ所あり。されば常にこの國の事情を調査し、交誼を厚ふし、經

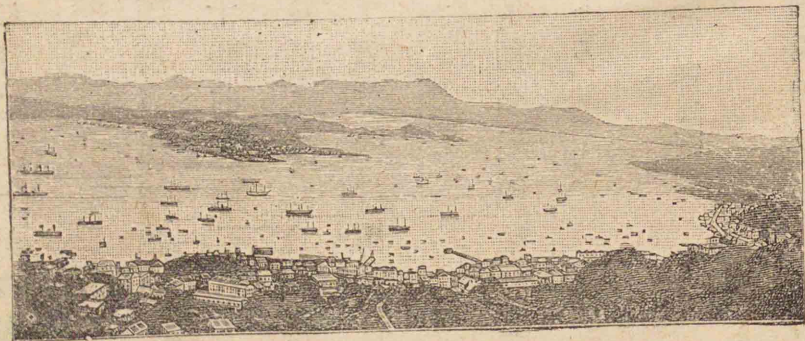
關東州  
威海衛

膠州灣



支那の境域内に各國の割據地ありて、支那政府より譲り受けしもの、または租借の名義なるものあり。左の如し。  
關東州 わが國の租借地なり。  
威海衛 Weihai Wei 山東半島の北岸にある港にて、英吉利の租借地なり。

膠州灣 Kiau-Chau 山東半島の南岸にある大灣にして、獨逸國これを租借し、市



香港市街りよ内港九龍半島を望む

青島 街及埠頭を青島に設け、鐵道を濟南府に通じ、北支那の商權をこゝに握らんとす。

廣州灣 Kwang-Chuan 雷州半島の東岸にあり。佛蘭西の租借地なり。

香港 Hongkong 廣東灣口の一小島にして、七十年前英國の有となり、近年その對岸なる九龍半島を租借して、これに合せたり。

九龍半島

中繼貿易港 Kaitung 東洋に於ける中繼貿易港にして、支那全貿易額の四割は、この地を経て行はる。

澳門 Macao 廣東灣西岸の一小半島にして、葡萄牙領なり。阿媽

澳門

香港の開けし以來頗る衰ふ

港・天川等の名を以て古くわが國に知らる。

### 第四章 亞細亞露西亞 Asiatic Russia

亞細亞露西亞は、本國に接續して、亞細亞洲の北部を占め、

面積百六萬方里あり本洲の五分二、わが國の二十五倍餘に當る。分ちて西比利亞・中央亞細亞・カフカズの三部となす。

#### 第一 西比利亞 Siberia 面積八十萬方里 人口九百五十七萬

境域 南は支那に境し、北は北極洋に面し、西はほぼウラル山脈を限りとし、東は太平洋に臨みてわが國に接し、東北端はベーリング海峽を隔て、近く亞米利加に對す。

地形 南境に阿爾泰その他の諸嶺相並び、これより東北に向ひ、ヤプロノイ・スタノボイの諸山脈となり、チユクチー半島に入り、ベーリング海峽に達す。諸山脈の北側は土地北

西比利亞大平原

極洋に向ひて緩斜し、オプ・イェニセイ・レナの三大河北流す。

東南部日本海岸なるシホタ山脈の内側に黑龍江の流域な

滿洲平原

Sikhota

Amur



北極洋岸  
太平洋岸  
氣候

世界の寒極

四帶

高地帶  
草原帶

森林帶

北極洋岸にはオプ灣Taimyr、タイミル半島等の出入あり。太平洋岸には、カムチャツカ半島Kamtschatka、オホーツク海Okhotsk、サハリン島Sakhalien等あり。

氣候 一般に大陸的氣候にて、冬夏温度の差大に、且つ雨量少し。南境の地は氣溫稍高きも、北方の低原は寒氣強く、ヤナ河畔のベルホヤンスク附近は世界の寒極にて、一月の平均温度零下四十八度なり。而して夏季は日照時間長き故、温度意外に高し。近海は冬季盡く氷結し、一も不凍港を見ず。

地形・氣候・生物の分布に基き、全土を分ちて四帶となす。(一)高地帶は南境の山地にて、金銀・石墨等の鑛産多し。(二)草原帶はその北にあり、東西に延長せる平原にて、殊に西部に廣し、樹木少なく、農産多く、最も重要なる地方なり。(三)森林帶はまたその北にあり、樹木繁茂し、栗鼠・狐・黑貂等その間に棲息す。

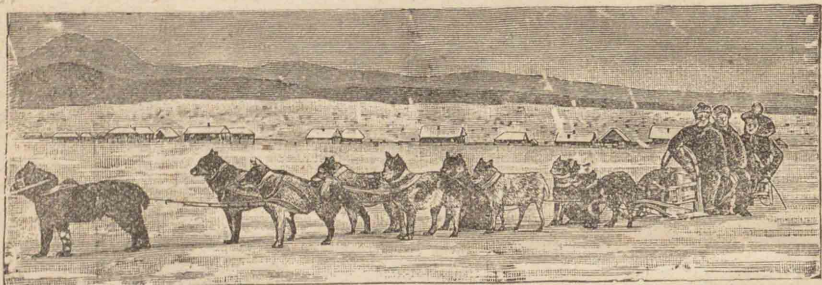
凍土帶

住民

最近本國より鐵道便により西比利亞に移住するもの非常に多し

産業

西比利亞犬橋



隨て毛皮の産多し。(四)凍土帶は北緯六十四五度以北の地をいふ、蘚苔のみを生ず。

住民 土著の住民はヤクト・ブリアYakuts、ツト・ツングス・フィン等の種族にて、今は露西亞本國よりの移住民多數を占め、總人口九百五十萬あり、近年頗る増加したれども、面積に比し、なほ頗る稀薄なり、東部には本邦人所々に住居す。

産業 全土沍寒なれども、夏季穀物の成長速かなるゆる、南境一帶農作に適し、小麥・燕麥の産多く、隨て住民は國境に沿ひ、東西に連なりて住居し、大鐵道その間

氣候と生業との關係

を通じてその發達を助く。また沿海州は漁業の利莫大にし

て、西部西比利亞は牛馬及羊多く牛酪の製造盛なり。

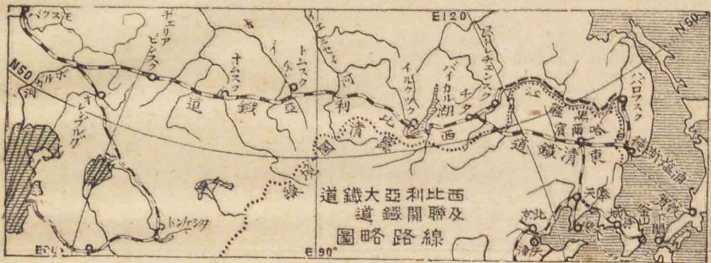
交通

交通 數條の郵便線路には、宿驛車馬

の設備あれども、その他は不完全なり。極北にては犬、馴鹿等を使役して橇を牽かしめ、また諸大河の本支流には、夏季汽船航行の便あり。

西比利亞鐵道はウラル山脈中のチエリアピンスクにて、歐羅巴露西亞の鐵道に接續し、これより東してオムスク・トムスク・イルクツクを経て、ストレチエンス

シベリア鐵道及西比利亞鐵道略圖



西比利亞鐵道は西比利亞の開發に大關係を有す。西比利亞鐵道は單線なれども、現今複線工事頗る進捗せり。

東清鐵道

クに達し、またその一端は浦鹽斯德より、ハバロフスクまで敷設を了へたり、之より黒龍江に沿ひ、兩線を接續する豫定なりしが、支那の領土を通過する東清鐵道を以てこれに代へ、頗るその距離を短縮し、全長四千哩あり。浦鹽斯德より十二三日にて露都に達すべく、歐亞二大陸交通の最捷路たり。而して今また最初の計畫に復し、黒龍江沿岸工事中なり。

區劃

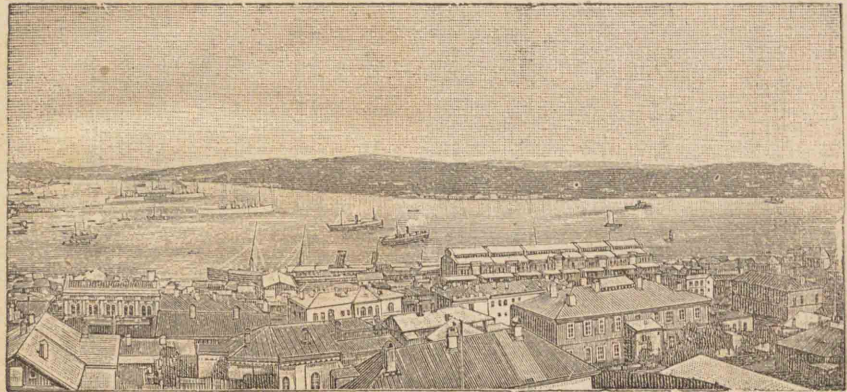
區劃 行政上西比利亞を三部に分ち、黒龍江地方と、東部西比利亞とには總督を置きて、軍事・民政を總轄せしめ、西部西比利亞は内務省の直轄となし、各地方はまた左の各省・各州に分たる。

- 沿海州 Kamtschatka
- 黒龍江地方 Amur
- 黒龍江州 Sakhalin

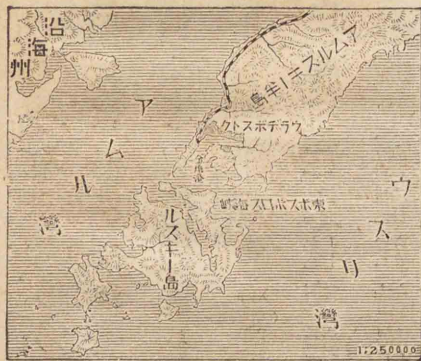
黑龍江地方

主即モ... 豆満江... カラフト... 南... 日本... 比...

浦 鹽 斯 德 港



浦 鹽 斯 德 附 近



- 外部イカル州 (Irkutsk)
- ヤクーツク州 (Yakutsk)
- イルクツク省 (Irkutsk)
- イェニセイスク省 (Yeniseisk)
- トムスク省 (Tomsk)
- トボルスク省 (Tobolsk)

地方誌

黒龍江地方 沿海州はわが朝鮮の國境豆満江より、オホーツク海の北

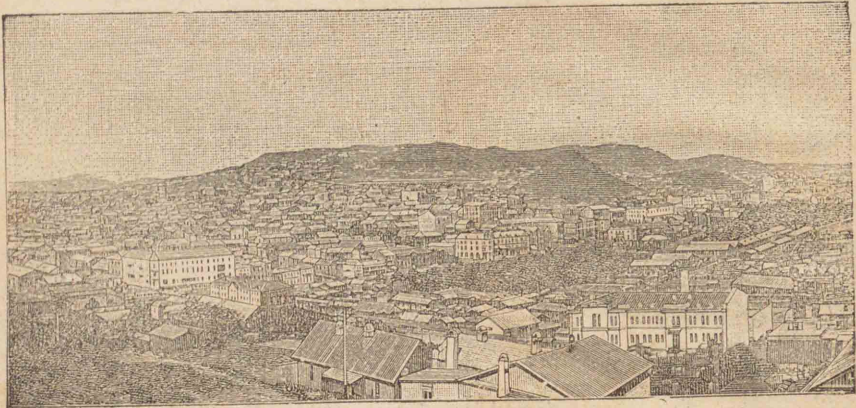
漁業

浦鹽斯德

港内は冬季結氷すれども碎氷船の設けあり船舶の出入を妨げず義勇艦隊船とわが大阪商船會社の船舶と交互隔日に航行す

ニコライエフ

(西よ東に向ひ港内を望む)



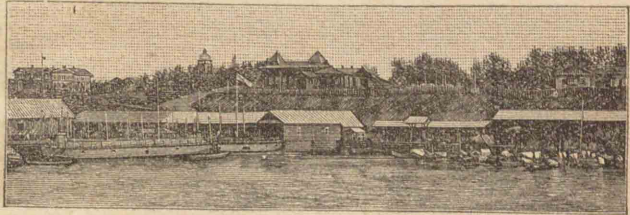
岸に至る狭長なる區域なり、鱒・鮭・鱒・鯉等の漁獲多し、概ね本邦人の従事する所にて、漁獲物はまた大部分わが國へ輸入す。浦鹽斯德市はペテロ大帝灣内にあり、軍港を兼ね、貿易港となし、露國東方唯一の門戸たり。義勇艦隊の汽船は此地と黒海のオデッサ (Odessa) との間を航行し、わが國の汽船は長崎・敦賀・函館等より盛に往來す。ハバロフスク市は烏蘇里江と黒龍江との合流點に位し、黒龍江總督の駐在所なり。黒龍江の河口にニコライエフ (Nikolayevsk)...

サハリン州

アレキサンドロ  
フスク

カムチャツカ  
明治四十二年新  
設の州  
ヒョートロバ  
ロフスク

市フェイラコニの岸北口江龍黒



イエフ市あり、附近鱒、鮭の漁獲殊に多し。  
サハリン州は即ち樺太島の北半にして、  
漁利林産共に本邦領に劣る。西岸間宮海峡  
に臨めるアレキサンドロフスク市は島の  
首邑なり。  
Alexandrovsk

カムチアツカ州 Kamtschatka

オホーツク海北岸の地なり。首府ヒョート  
Petropavlovsk

息すれども、濫獲の爲め絶滅の虞あるを以て、日露英米の四  
國協議して獵獲を制限せり。コマンドル島は露國に於てそ  
の繁殖場と定めし所なり。  
Komandorski

明治四十四年以後十五竹園  
ムササビ、コマンドル島  
もササト。

ブラゴベシチ  
エンスク

ブラゴベシチエンスク市は黒龍江州の首府なり。附近に  
産金地多し。チタは外バイカル州の首府なり。西比利亞鐵道

カルイムスカヤ  
キアフタ

は其東なるカルイムスカヤより東清鐵道を分ち出だす。キ  
アフタは支那國境の貿易場にて、磚茶と毛皮との交換多し。  
Kiakhta Kanymskaya

東部西比利亞

イルクツク

東部西比利亞 イルクツク市はバイカル湖より流出す  
イルクツク(10)

ヤクーツク

ヤクーツク市はレナ川に臨む。附近の地中に、マンモスの遺  
骸を藏し、象牙を産す。  
Yakutsk Lena Mammoth

西部西比利亞

トムスク

西部西比利亞 オブ河の流域を含み、北部は卑濕の凍土  
帯なれども、南部は草原帯に屬し、農産・畜産多く、西比利亞の  
穀倉と稱せらる。トムスク市はオブ河の右岸に位し、大學・博  
物館等あり。その南なるバルナウルは鑛業の中心地なり。  
Tomsk(11) Barnaul(6)

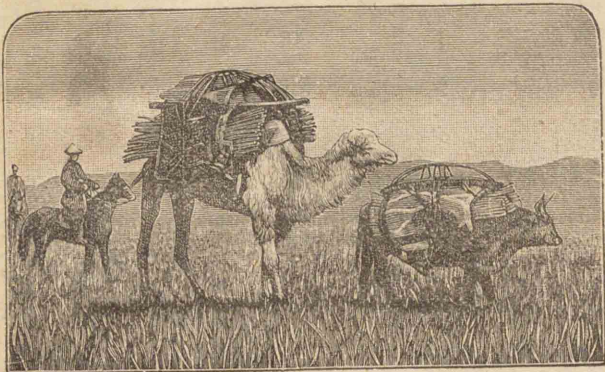
境域・地形

境域・地形 東境及南境には峻嶺  
相連なり、その麓は直ちに低原とな

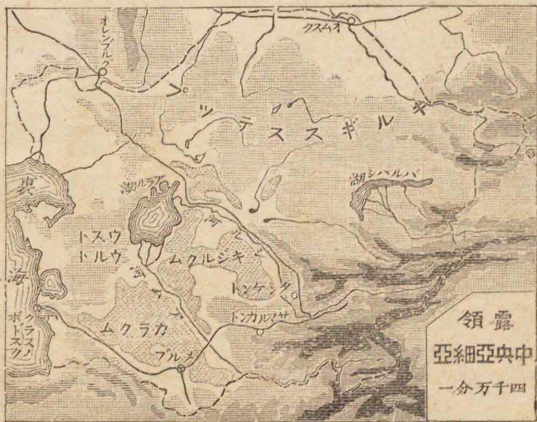
裏海

世界第一の大湖  
面積二萬七千五  
百方里朝鮮を除  
きたる本邦面積  
と略ぼ均し

キルギス人水草を逐てうつりて居る状態



り、北はキルギス草原を以て西比利亞に連なり、西は裏海の岸に至る。海風至らず、沙漠廣く、無口の鹹湖。末無川多し。伊犁河はバルハシ湖に終り、アム河・シル河はアラル湖に終る。裏海もまた數多の巨流を

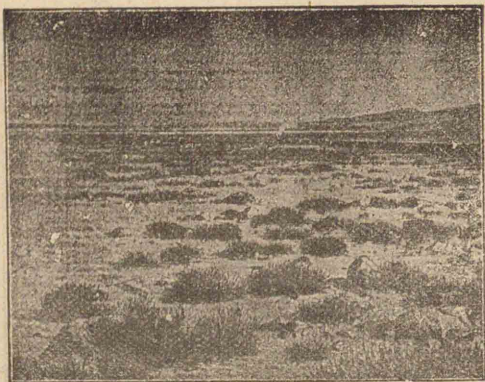


第二 中央亞細亞 Central Asia

住民・生業

吸入すれども、流出口なし。

住民・生業 人口千七十萬あり。住民中最も多きは、土耳其種族及キルギス種族にして、帳幕を家とし遊牧を事とす。またイラン種族は概ね農桑を勉め、露西亞本國より移住せし



外裏海地方沙漠の景

スラフ種族は、商工業に従事す。棉花・蠶絲・羊毛の産出多し。

此地方は漢代の所謂西域にして、大月氏・大夏國等あり、波斯・印度羅馬等皆此地方を経て支那に紹介せられたり。即ち東西文明の連鎖點なり。

地方誌 行政上分ちて草原地方  
土耳其斯坦・後裏海地方の三部、及ブ  
ハラ・ヒバの二屬國となす。

區劃

草原地方

オムスク  
タシケント

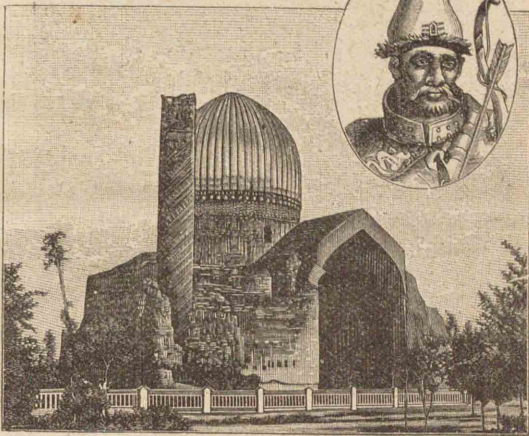
サマルカンド

交通

此鐵道により露國は容易にアフガニスタンに出兵すべく英國は印度西北境の守備弱きを感じ萬一の際は日本陸兵の力を藉らんとすこれ日英同盟の範圍を擴張せし理由なり



帖木兒の廟



廟は普通にグルアミルといひサマルカンドの北隅にあり

草原地方は農産・畜産最も多く、首府はオムスクにあり。タシケントは土耳其斯坦の首府にして、絹綿機業及商業盛なり。サマルカンドは帖木兒の舊都にて、その城址墳墓あり。

交通

裏海の東岸クラスノボドスクよりメルブ・サマルカンドを経て、タシケントに至る鐵道を、

後裏海鐵道と稱す。また歐露オレンブルグより、アラル海の

東北岸を過ぎ、タシケントに達する鐵道あり。近年この二線の完成により、露國の威力アフガニスタンに加はりしこと、

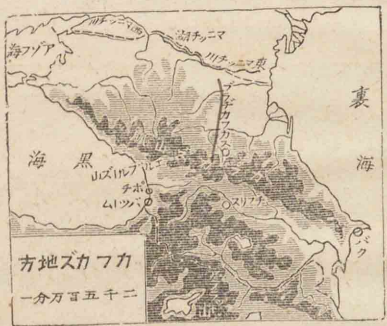
頗る大なり。

第III カフカズ Caucasias

カフカズ

住民

産業



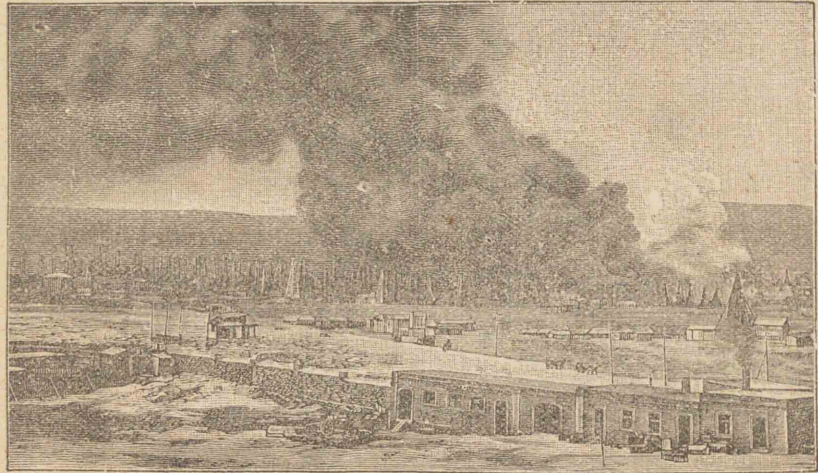
裏海と黒海とに挾まり、カフカズ山脈の南北に跨がる。山脈の北を内カフカズ、南を外カフカズと稱し、氣候・生物著しく異なり。されど中間にダリエル峠の好通路と、山脈の兩端を通ずる鐵道とありて、全土の統一を妨げず。面積三萬方里、人口千二百萬あり、人種非常に多し。その中シルカシア人は、容貌秀麗なるを以て知らる。

外カフカズは氣候溫和にして、小麥・葡萄・煙草・蠶絲等を産し、内カフカズは雨量少なく、大部分草原にて、良馬を出だす。

石油

チフリ

石油の噴出に盛立林檎樓の井油  
地油噴くバ  
りな火失其はるな煙の噴中圖りあところす  
火失々往はに申るせ出噴に



されど最も重要なるはバク  
Iの石油にて、其産出量北米 *Baku*  
合衆國に次ぐ、これより鐵管  
と油槽車とによりて、黒海海  
岸のバツーム及ポチに送り、  
*Batum*(4) *Poti*  
油槽船を以て各國に輸送す。  
チフリはカフカズ總督の  
*Tiflis*(30)  
治所にして、波斯に對する貿  
易盛なり。バクは裏海に於  
ける軍港にして、兼て商港な  
り。

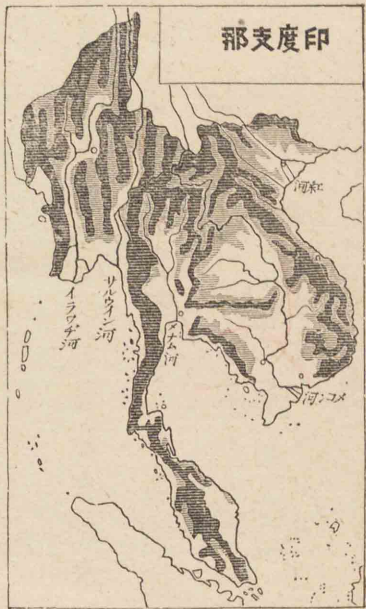
概括及本邦との關係 西

比利亞は氣候寒けれども不毛の地に非ず、ただ從來交通運  
輸不便なりしゆゑ、住民少く、農産擧らざりしが、大鐵道の開  
通以來移住者急増し、草原地方の農産・畜産非常に發達し、北  
滿洲も亦大に其利を加へんとす。その他阿爾泰山中の金、バ  
クアの石油、オホーツク海の漁獵の利多く、露國は侵略的經  
營を止め、一意殖産興業の策を講ずるを以て、今後一層進歩  
して、わが國と貿易關係を深くするに至るべし。況んや大鐵  
道開通の爲に、わが國と歐米諸國との往來を頻繁にし、滿洲  
に於て鐵道接續し、その關係益密接なるに於ておや。

第五章 印度支那 *Indo-China*

境域 太平洋と印度洋との中間に突出する半島にして、

境域



(一分萬千四)

横斷山脈の餘派南下し、その中央の一派特に延長して馬來半島となる。紅河・メコン・メナム・サルウイン・イラワヂ等の諸川、その間に於て縦谷を

作り、何れも下流に沃野を有す。

**氣候天産** 全部熱帶中に位し、温

度高く、雨量多く、季節風行はれ、米の大産出あり。所謂南京米は、概ねこの



地方より出づ。また玉蜀黍・棉花・煙草・甘蔗を耕作し、胡椒・丁子・檳榔子・ユブラ・護謨を採り、チーク材を伐り出す。

氣候・天産

南京米

區劃

東京河内海防

安南順化 交趾支那 (佛國) サイゴン (佛國) 東洋貿易の中心 名義はかりの安南皇帝順化府に居る

**區劃** 東部は佛蘭西に屬し、東京植民地・安南保護國・柬埔寨保護國・交趾支那植民地・老撾植民地の五部に分れ、西部の緬甸は、政治上、英領印度に包含せらる。中央に暹羅の獨立國あり。馬來半島には英領海峽植民地及英國の保護を受くる馬來聯邦あり。

**第一 佛領印度支那 French Indo-china** 面積四萬三千方里 人口千七百萬

東京は域の北部に在り、紅河の流域を占む。河畔の河内は佛領印度支那總督の駐在地にて、貿易港海防はその下流に在り。鐵道この二市を貫き、雲南府及廣西省南寧に達し、南支那の利權を此地に收めんとす。安南は東海岸に在り、丘陵多し、首府を順化といふ。交趾支那はメコン河の三角洲の地なり。首府西貢はサイゴン河に臨み、米材木の輸出港にして、

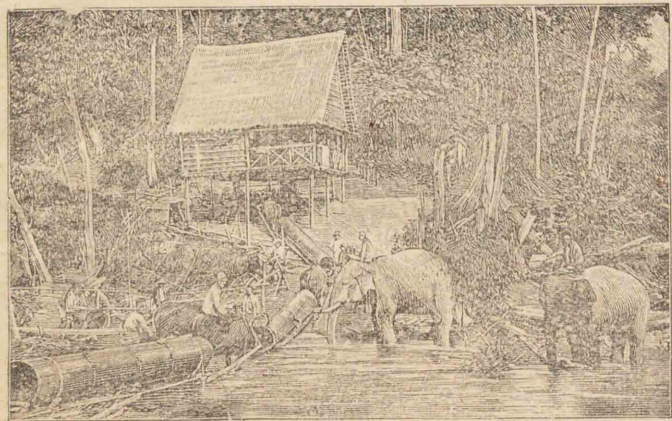


シヨロロン

東蒲塞  
首府ブノンベン  
老樹  
首邑ルアン  
パン

境域

暹羅象人と水牛とを役使して材巨の搬運せむ



佛國支那艦隊の根據地とす、其傍なるシヨロロンには精米も盛に米を輸送す。メコン河の中流に東蒲塞あり、上流に老樹あり。何れも農産多し。

第II 暹羅 Siam 面積四萬方里 人口八百十五萬

英佛兩國の領地に挟まれ、現今確實に保つ所はメナム河の流域のみにしてメコン河の流域は佛國の勢力範圍に、馬來半島は英國の勢力範圍に屬し、この國の主權十分に行はれず。

産物  
住民  
貿易卷末附表を  
見よ

政體

シユゴダノ大塔



ランゲンにあり大塔の高さ三百七十尺周圍千三百五十五尺外圍にまた無數の小塔あり總て佛像を安置す

米は此國最大の輸出品にて、チークこれに次ぐ。住民の半數は暹羅人、半數は支那人、馬來人なり。政體は君主專制にして、政治は貴族多くこれに當り、商業及その他中流の事業は支那人多くこれを營む。近頃政府は法律農工教育等の顧問官を、歐洲諸國及わが國より聘し、制度を改め、産業を興しつゝあり。

バンコク  
パクナム

首府バンコクはメナム河に跨がり、下流のバクナムを外港とす。鐵道此二市を貫き、一は既にメコン河の流域なるユラト市に達し、一はチーク及農産の大市場なるシエンマイに向ひ、一は南下して半島部に入る。

第三 緬甸 Burma  
面積四萬方里  
人口千五百萬

ベンガル灣に面し、サルウィン・イラワヂ二大河の流域に屬し、米の産出多し。ラングン（Rangoon）はイラワヂ河の三角洲にあり、米の大輸出港なり。マンダレ（Mandalay）は舊都にして、壯麗なる寺院あり、この國一般に佛教盛なり。バモ（Bhamo）は雲南の境にあり、ラングンより鐵道を通ず。支那の西南部に對する要地なり。

第四 馬來聯邦及海峽植民地

Federated Malay States and Strait Settlements

位置

ラングン  
本邦へ輸入する米は最も多く、ラングンより來りしが近年西貢に一步を譲ることゝなれり  
バモ

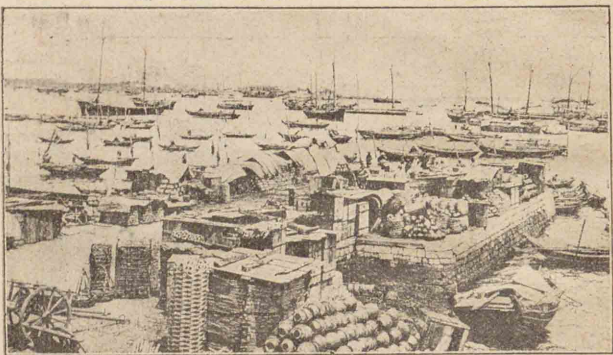
馬來聯邦

海峽植民地

住民

物産  
世界最大の錫產地

新嘉坡の埠頭と地圖



馬來半島のペラ（Perak）、ク・セランゴル（Selangor）、その他數箇の小國は、聯合して馬來聯邦を組織し、英吉利の保護を受け、また新嘉坡（Singapore）

坡（Malacca）及ペナン（Penang）の三地は、合して海峽植民地と稱し、英國の直轄に屬す。住民は馬來人・支那人相半せり。

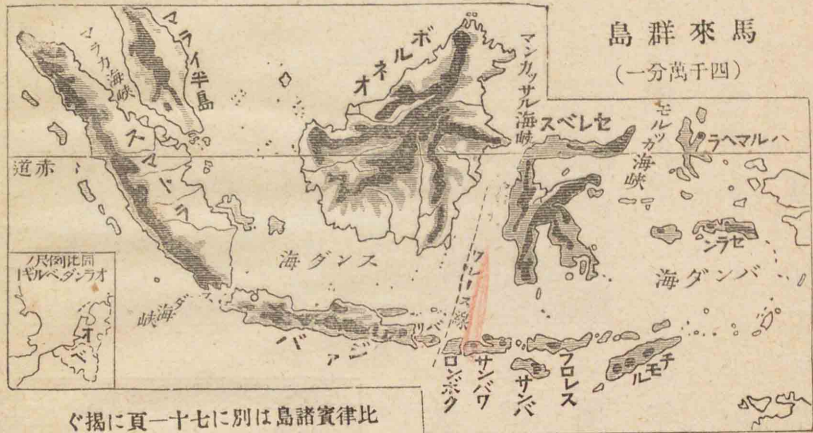
物産は錫を第一とし、近年護謨の栽培盛に行はれ、本邦人のこれに従事するもの少からず、其他香料・籐・コブラあり。新嘉坡は世界交通の要路に當り、中繼貿易盛にて、船舶輻湊し、英

境域

區劃

ボルネオ・オーストラリア・ツァバ・セレベスの四島を大スンダ諸島といふ

ワレース線  
此線以東は生物の種類濠洲に類似し以西の生物は亞細亞大陸に類す



比律賓諸島別は別一十七頁に據る

國艦隊の根據地なり。

第六章 馬來群島(東印度)

諸島(Malay Archipelago)

亞細亞・濠斯太刺利兩大陸の間にある無數の島嶼の總稱にして、比律賓群島・ボルネオ島・スマトラ島・瓜哇島・小スンダ諸島・セレベス島・モルッカ諸島等あり。和蘭・英吉利・北米合衆國・葡萄牙に分屬す。

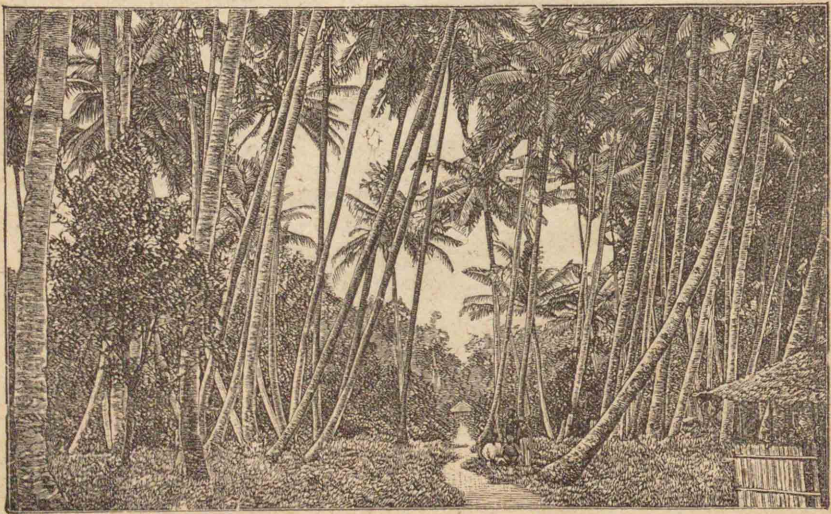
諸島の間、ワレース線ありて、  
Wallace's Line

地形

世界中火山作用最も盛なる所

セレベス海・マカッサル海峡及バリ・ロンボク海峡を通ず。海底の状況、生物の種類、此線の兩側に於て著しく異なり。  
地形 全群島略ぼ三角形をなし、外側なる東と南の二面は山脈海岸に迫りて、直ちに太平洋・印度兩洋の深海に臨み、北側なる内面は地形稍平坦にして、ボルネオ海・スンダ海等の諸内海もまた海底淺し。外側山脈には火山多く、瓜

東印度の椰子林



氣候・天産

實と花の琲珈



氣候・天産 全部熱帯

中にあり、暑氣強く、雨量多く、一年の半は乾季、半は雨季にて颶風時々襲來す。米・砂糖・煙草・珈琲・サゴ米・香料・護謨・幾那・ココナツ椰子等物産豊富なれども瓜哇島を除くの外、内



る取を維織りよ斬其てしに物産の利烈芭

哇島には實に二十の活火山あり、スンダ海峽のクラカタウ山は明治十六年大破裂をなせり。

住民

境域

産物

マニラ

部は密林鬱鬱、沼澤沮洳の地多く、猩々狒々等棲息し、人跡未到の地少なからず。

住民 大部分は馬來人種にて回教を奉ず。支那人・印度人・亞刺比亞人また少なからず。

第一 比律賓群島北米合衆國領 Philippine islands



島群ンヒリィフ 一分萬千四

呂宋・ミンダナオ・パラワン・其他數多の島嶼より成り、山岳多く、平地少なけれども、北米合衆國の領有以來、道路鐵道を修築し、産業急に發達せり。産物は麻を第一とし、コブラ・砂糖・煙草等多し。本邦へはマニラ麻を輸入し、麻真田の原料となす。

首府マニラは呂宋島の西岸にあり、同名の灣に臨む。わが

スピタ

國と定期航海の便あり。スピタは北米合衆國亞細亞艦隊の根據地なり。群島内本邦人多數在住し、農業・漁業及土木工事に従事す。

第II ボルネオ Borneo

世界第三の大島に

して、東南の大部分は

和蘭に屬し、西北岸の

北ボルネオ植民地及

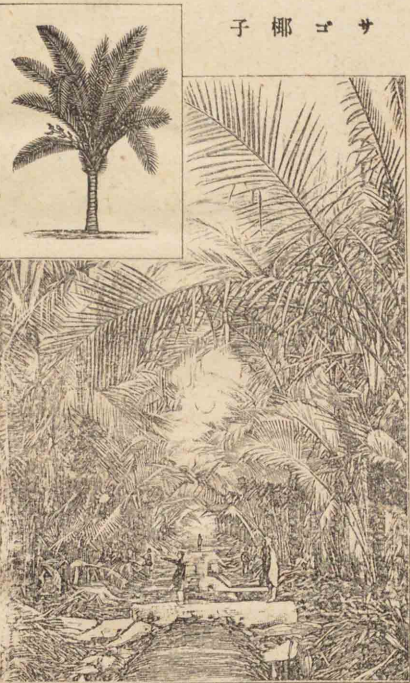
ブルネー・サラワクの

兩保護國は英國に屬

産物

サゴ米はサゴ椰子の幹を伐り倒しその柔軟なる髓質部をすりつぶし水にて洗ひ取りたる澱粉なり米粒形に固めたる故サゴ米と稱すれども米とは全く異なり

子椰ゴサ



す。サゴ米・煙草・胡椒・石油の産多し。

第III 和蘭領東印度諸島 Dutch East India

境域

和蘭は馬來群島の大部分及ニューギニア島の西部を領し、

總督府を瓜哇島のバタビアに

置く、面積總計十二萬方里あり、

本國の六十倍に當る。

セレベス島

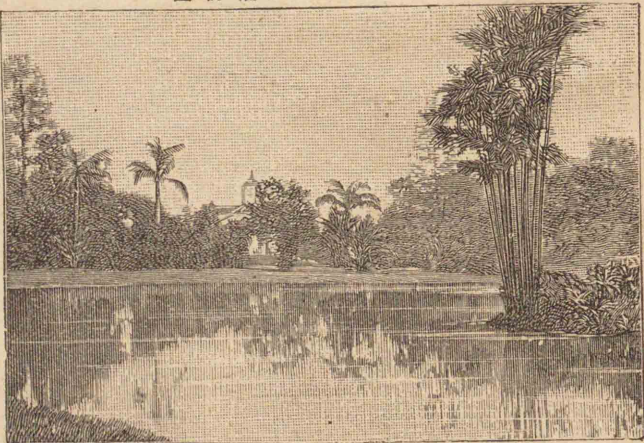
セレベス島は氣候極めて良

Oelebes

面積

本國の六十倍に當る。

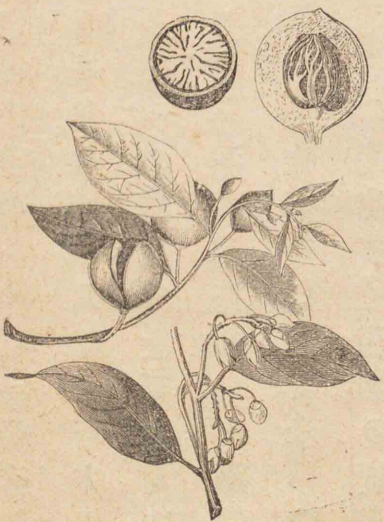
園物植アルソソテイホ



の物植帶熱して涼爽燥高地土りあに哩五十南のアビタバりあにふこも邸官の督總りな園物植るな名有て以を究研

モルツカ島

菱 荳 肉



好にして珈琲を産す。首邑を

マカッサルといふ。モルツカ

Macassar

Molucca

肉荳蔻の特産  
香料の王  
貿易統計卷未附  
表を見よ

瓜哇  
和蘭の寶庫  
コブラは椰子實  
の核果の内側に  
附着せる白色肉  
質部を乾燥せし  
ものなりこれを  
絞って椰子油を  
取り石鹼製造用  
に供す

バタビア

スマトラ島  
バンカ島

諸島は肉荳蔻を産し、香料諸島の稱あり。

瓜哇島は面積八千五百方里に過ぎざれども、人口三千萬ありて、その密度は、世界中人口最も稠密なる白耳義と大差なし。諸島遍く開拓せられ、鐵道は島の全長を通じ、道路溝渠完備し、地味豊饒にして、米、砂糖、煙草、コブラ、珈琲、茶、藍錠、幾那護謨等の産出多く、和蘭の寶庫と稱せらる。首府バタビアは島の西北岸にあり、領地内の産物こゝに集まる。重要輸出品は砂糖にて、本邦へも盛に粗糖を輸入す。近年本邦製メリヤス肌衣その他綿布雜貨の賣れ行き多く、本邦人多數に在住し、日瓜貿易年々増加す。但し内地商業は支那の移住者最も優勢なり。スラバヤは島の東部に於ける重要港なり。

スマトラ島は東側に平地多く、煙草、石油を産し、屬島バン

Sumatra

Soerabaya (15)

Bangka

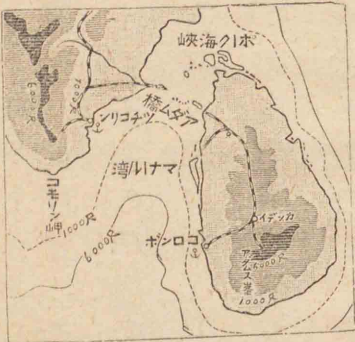
小スンダ諸島  
チモール島

境域

カには、錫の大産出あり。瓜哇島の東にバリ・ロン、ボク・サンバ、ワ・サンバ、フロレス、チモール其他の諸島相列り、その末セラシアン、ブル等の諸島となる。總稱して小スンダ諸島といふ。

第四 チモール Timor

葡萄牙、和蘭の兩國に分屬す。開拓未だ十分ならず。



(一分萬千一)海近其と島ソロイセ

印度大陸とセイロン島の間に極めて淺き海底あり島嶼其上に列をなし恰も橋を架するが如しアダムスブリッジの稱あり左右に鐵道を通じ中間小距離聯絡船を以て渡す

印度は北にヒマラヤ山脈を負ひ、西はスレイマン山脈を限り、東は緬甸に接し、南は印度洋に突出して、ベンガル灣とアラビア海とを分つ。半島の尖端はコモリン岬に終り、更にアダム橋を

第七章 印度 India

面積  
緬甸及ベルチス  
タンを含む

政治

政治上の印度帝國  
緬甸  
ベルチスタン  
アデン  
印度(直轄部  
藩部  
内左の各地を除く)  
セイロン島  
ネパール  
ブータン  
佛領數ヶ所  
ネパールブータ  
ン共に事實上英  
國の屬國なり

以て、セイロン島に連なる。面積二十七萬方里略ぼ支那本部の大きに均し。

政治 此國は上古既に文學・宗教ともに、高度の發達をなししが、王朝の興廢常ならず、全土統一せしこと稀なり。現今英吉利の領地なれども、名義は、印度帝國と呼び、英吉利皇帝兼て印度皇帝の位を踐み、印度總督を派遣し、副王としてこれを治めしむ。

印度帝國は直轄部と藩部とに分かれ、直轄部には知事または副知事を置き、藩部は諸侯の政治に任せ、駐在官を派遣して或は附近の知事これを監督す。總督の管する所は、緬甸、ベルチスタン、アデン等及び、セイロン島は却て本國の直轄となし、また域内にネパール、ブータンの兩獨立國あり。佛

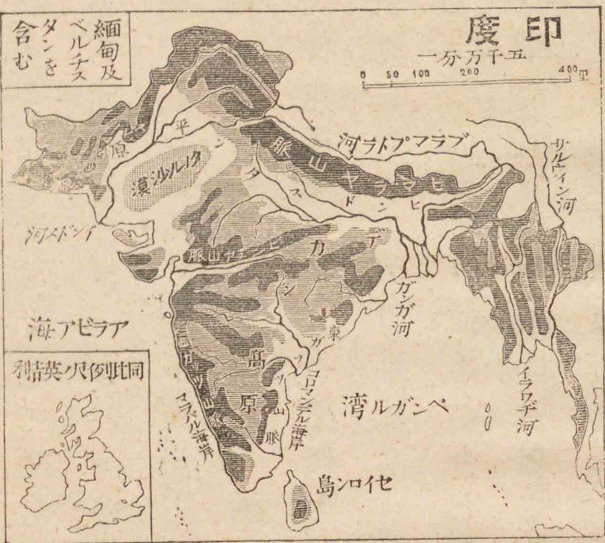
地形

ヒマラヤ山地  
エベレスト峰  
ネパール  
ブータン  
カシミル

蘭西・葡萄牙の小領土所々に散在す。

地形

海岸單調にして港灣少なく、域内は土地の高低に



此山地を占め、氣候爽涼なり。

よりおのづから左の三部に分る。

ヒマラヤ山脈 Himalaya

山脈は長さ六百里に亘り、平均一萬八千尺の高度を有し、山中氷河多し。エベレスト峰 Everest

は、實に世界最高の山にして、二萬九千尺あり。ネパール、ブータン及カシミル藩部等は、

デカン高原

Deccan

東ガッツ

West Ghats

Vindhya

の三山脈に

マラバル海岸

からず、西海岸をマラバル海岸と云ふ。山脈の傾斜急なり。東

海岸をコロマンデル海岸と云ふ、稍平夷なり。隨て河水は概

コロマンデル海

ねコロマンデル海岸に向ひて流る。

印度平原

印度平原

デカン高原とヒマラヤ山地との中間にある

ガンガ河流域

低地にして、その東半はガンガ河の流域に屬し、下流におい

Brahmaputra

Ganges

てブラマプトラ河と結合して、廣大なる三角洲を作る。土地

低平灌漑の便多く、世界有数の豊饒地にして、流域内の人口

一億を超ゆ。西半はインドス河の流域に屬し、上流には豊饒

なるパンジヤ地方あり。下流は雨少なく、タール沙漠廣し。

氣候

氣候

全部熱帶中にあり、平地は温度高く、雨量多し。一般

パンジヤ地方

Punjab

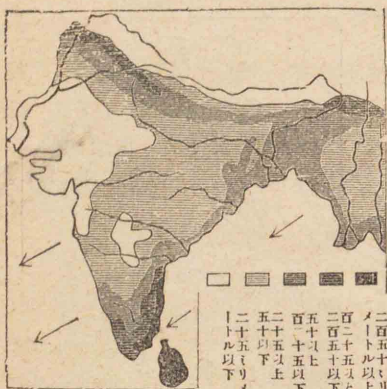
Thar

インドス河流域

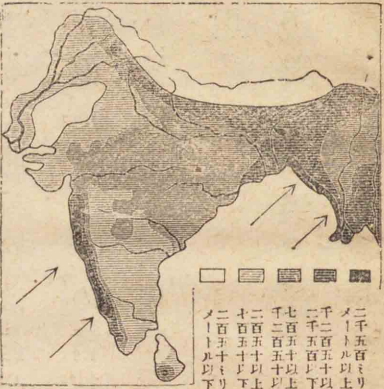
宗教

住民

冬季北東季節風節の中節雨量



夏季西南季節風節の中節雨量



兩圖の濃度に大差あり凡例に注意せよ

に季節風行はれ、夏は西南の海風吹きて、マラバル海岸及ヒマラヤ山脈の南側に降雨多く、冬は東北の陸風吹きてコロマンデル海岸の外は大抵乾燥す。故に西南季節風強く吹けば豊作にして、風力弱きときは往々饑饉を來たす。

住民

人口三億三百萬あり、固有

の住民はドラービダ種族なれども、

デカンの山地に退き、ヒンヅ種族

Hindu

代て印度平原を占有し、其數最も多

く、一般に婆羅門教を改革せしヒン

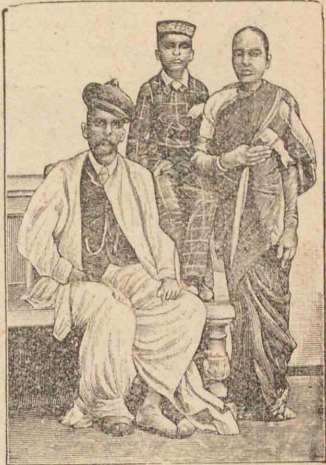


教育

勢力ありしが、今は主として錫蘭島に  
行はる。普通教育は甚だ振はず、大學の  
數五箇あり。土人の言語數百種に達し、  
地を異にすれば相通ぜず、英語遍なく  
通用す。

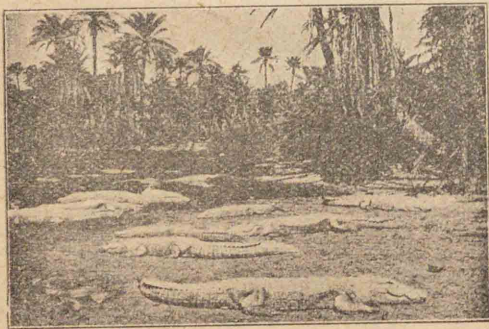
産業 高温多濕なるため、動植物の  
生育速にして、チーク、菩提樹繁茂し、猛

族種 | ツ | ソ | ヒ



ゾー教を奉じ、僧族、土族、農商  
奴隸の四階級あり。其細別無  
數にして、格式頗る嚴なり。回  
教また廣く行はる。佛教は婆  
羅門教に對抗して起り、頗る

景の澤沼近附買孟



産業  
動植物

農業

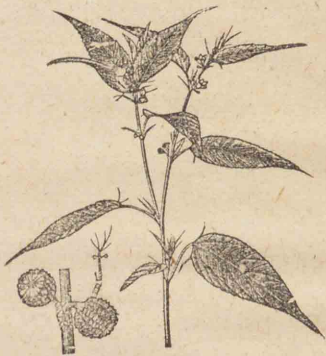
菩提樹は氣生根を以て繁殖し一本の樹より一大森林を生ずるに至る圖はカルカッタ植物園に在るものなり。地は樹蔭を以て學校ともなし。或は俱樂部ともなす。釋迦が弟子に法を説きしも亦此樹下に於てせり。棉花は世界總產額の一割四歩を輸出す。支那にて禁煙せしため罌粟の栽培年々減少す。

工業

黄麻(シュエート)の織物は本邦にて通常ツックと呼ぶ。

獸毒蛇多し。住民は農業を以て  
主産業となし、米、麥、棉及黄麻、茶、

黄麻



インゲゴ



瞿粟煙

草砂糖

藍菜種、珈琲、護謨等を栽培し、工業は綿

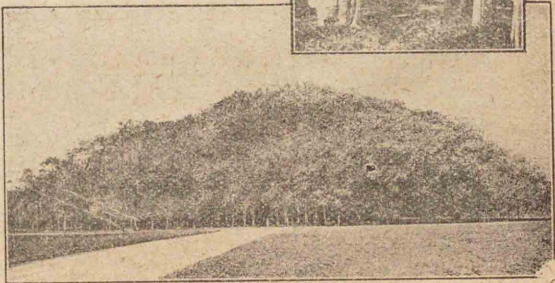
絲紡績最も盛にして、黄麻羊毛の紡績

之に次ぐ。輸出十七億圓、輸入十五億

圓ありて、棉花、黄麻、米、麥、油料種子、皮

革、茶、阿片等を輸出す。わが紡績の原

料棉花の半ばはこの國の供給する



部 - の根生氣其と樹提菩

所なり。鑛物には南部 Mysore マイソル藩部より金を出し、ベンガル Bengal 地方より石炭を出す。鐵道の延長三萬三千哩に達し、重要都會はほぼ聯絡せり。

地方誌

ブラマプトラ  
河流域  
アサム  
の雨量一  
年二萬ミリメ  
ートル

ブラマプトラ河流域 印度平原の東部を占め、東ベンガル及アサム州に屬し、世界最多の雨量あり。黃麻と茶との大産出あり。

ガンガ河流域  
カルカッタ

ガンガ河流域 Calcutta カルカッタはカンガ河の支流に臨み、大

船こゝに廻り、貿易盛なり。人口百二十萬あり。明治四十四年首府を Delhi デーリに移す旨發布したれども政廳は今なほ此市にあり。ガンガ河に沿へる Patna (13) パトナは、米・阿片・藍靛の大市場なり。附近なる Buddha-gaya ブダガヤには、釋尊の遺跡多し。 Benares (20) ベナレスは其上

パトナ  
ブダガヤ  
ベナレス

景光のスケッチ



淨土の心身は或てし祭に之して所るす觀聖神の徒教度甲は河、す達に岸河てりよに段階りよ路街み臨に岸左河カンガは市で集慶の心身りよ方諸は圖。よ着をさこんら至に國天て以れば運に中河を越遠其てし死に時河は成り斯を遠平氣病は或得る。す運を船買、哩百四とこる距をマツカレカ。す有なと堂拜禮の百三と院寺の千一なるな賑壯は市。す示なる

リハ  
ガ  
ル

デリー

インドス  
域 河流

パンジ  
ア

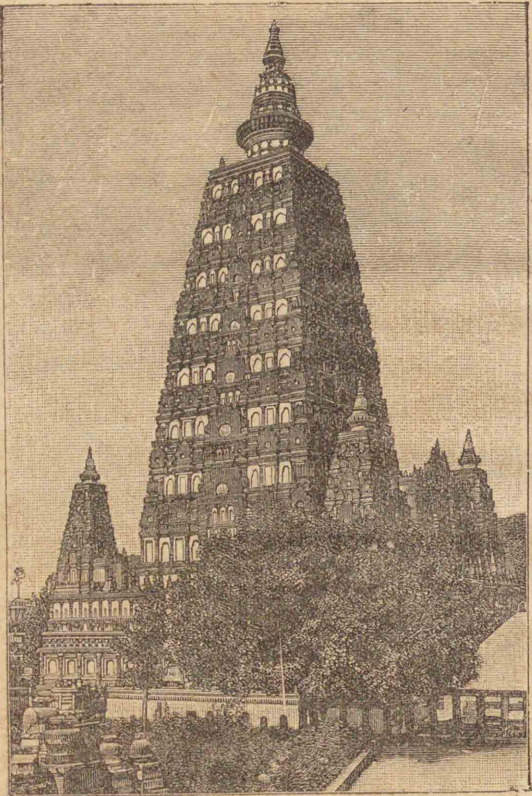
ラホ  
ール

シム  
ラ

流なるアラハバードと共に、婆羅門教徒の靈地とする所、  
デリーはモンゴル

Alhahabad (17)

アタガヤ  
佛陀伽耶の大塔 高さ百七十尺四邊各四十八尺内に釋尊の石像を安置す



帝國の首府たり  
し所なり。

インドス  
域 河流

Indus

パンジ  
ア

Punjab

地方には、麥の産

多し。ラホールは

Lahore (21)

その中心にあり。

シムラは海面上

Simla

七千尺の高地に位し、夏季は總督以下、暑をこの地に避けて  
政務を執り、事實上の首府となる。ペシアワルは西北國境に

Peshawar (9)

ペシアアルより西方ハイバル峠を越ゆれば直ちにアフガニスタンの首府カブールに達すべしカラチ

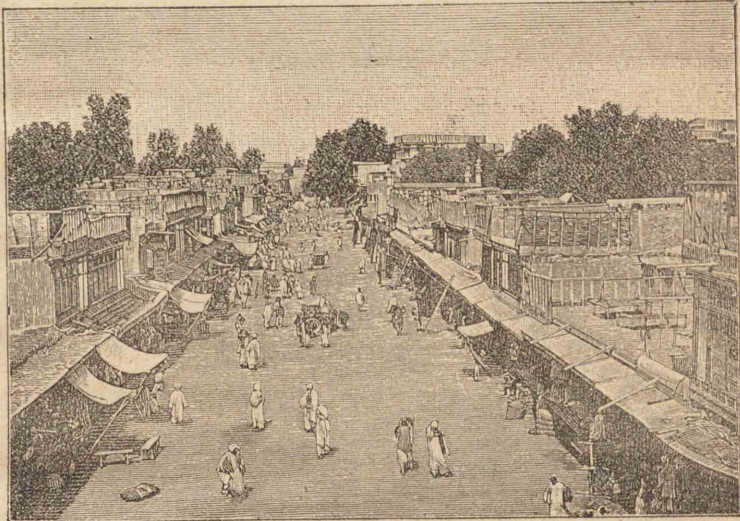
デカン高原

ボンベイ 印度綿絲紡績機數の五割はボンベイ及其附近にあり

マドラス

ハイダラバード

ハシワトル土人街



ハイダラバードは、印度最大の藩部ニザム侯國の首府なり。

あり、アフガニスタンに對する要鎮なり。インドス河口に近く近年發展せしカラチの貿易港あり。

デカン高原

Decan

一般に棉の栽培盛なり。ボンベイは棉花の取引及綿絲紡績業の中心地にして、日本郵船會社の汽船、棉花積取の爲め定期に往復す。マドラスは、コロマンデル海岸の重要港市にして、ハ

Madras (51)

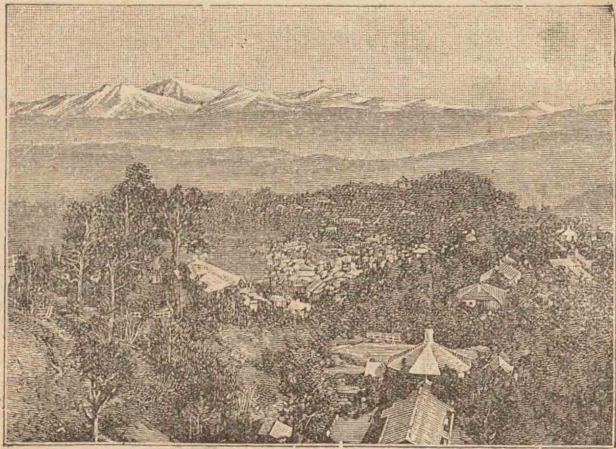
Coromandel

Nizam

ヒマラヤ山地

ネパール  
ブータン

ヒマラヤ山脈の展望



ダーワリンはシキムにあり、國境を去ること七十哩、土地高く氣候爽涼なり。

ヒマラヤ山脈

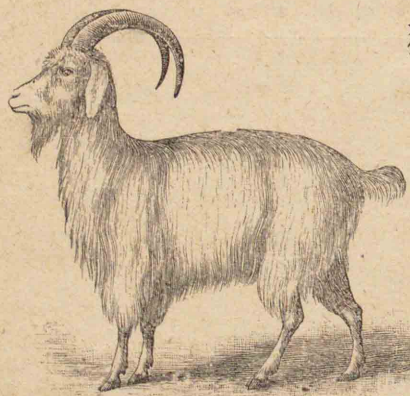
カシミール藩部は、ヒマラヤ・カラコルム兩山脈に跨り、インドス河上流の河谷を含む。麥の産出多く、山羊の牧畜盛なり、カシミール毛織の名産あり。ネパール・ブータンの二國は、獨立の名義を有すれども、實際は

Kashmir

カシミール藩部は、ヒマラヤ・カラコルム兩山脈に跨り、インドス河上流の河谷を含む。麥の産出多く、山羊の牧畜盛なり、カシミール毛織の名産あり。ネパール・ブータンの二國は、獨立の名義を有すれども、實際は

Nepal

Bhutan



カシミール山羊

シキム

印度政廳の監視の下にあり、共に鎖國主義を取り、容易に外國人の入國を許さず。シキムは兩國の間に挟まれ、その首邑Sikkimダージリンは西藏の亞東と相對し、貿易場にしてお好避暑地なり。

錫蘭島

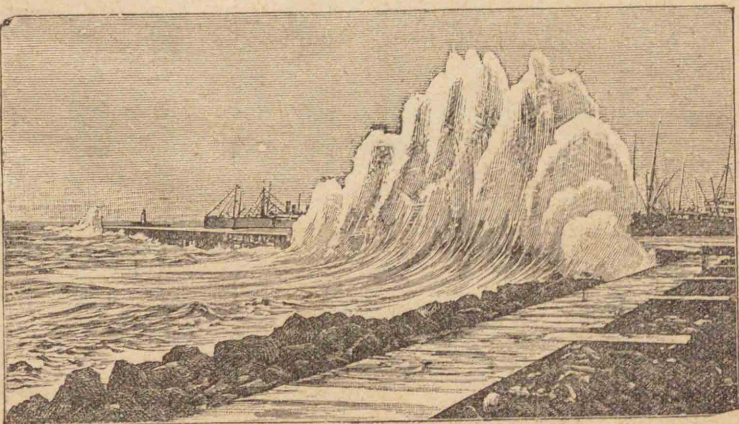
世界茶の產地

- 1 アサム
- 2 セイロン
- 3 支那
- 4 日本
- 5 瓜哇

コロンボ

錫蘭島は、英國の直轄植民地にして、最近三十餘年間に茶の栽培急に發達し、わが國の産額に數倍せる量を輸出するに至り、護謨の産額急に増加し、コ、椰子、石墨また多し。コロンボは島の西岸にあ

景の堤波防の港ボンコロ

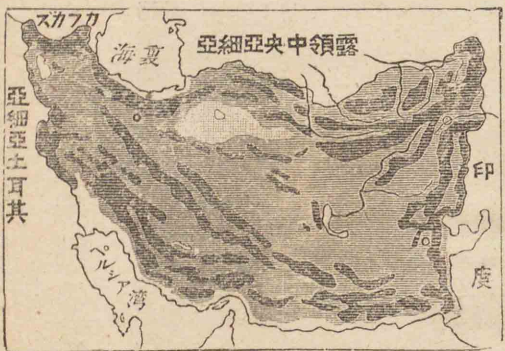


西南季節風吹く時はコロンボ港に打寄する波浪頗る高し由て堅固なる築堤を以てこれを防ぐ。

イラン高原  
境域

氣候  
鹹湖・末無川  
人種  
宗教

(一分萬千四)原高シライ



第八章 イラン地方

り、歐亞航行汽船の寄泊所なり。

總説

イラン地方は、東にスレイマン山脈あり、北にヒン

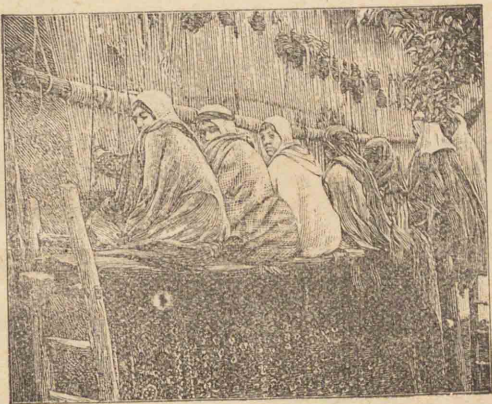
ズークシ山脈・エルプールズ山脈相連なり、西より南はクルヂスタン山脈及メクラン山脈に擁せられ、其外側は忽ち陥りて低原湖海となり、内部は一體の卓狀の高原にして、多くは沙漠に屬し、無口の鹹湖及末無川多し。住民はカフカズ人種に屬するイラン種族にして、回教を奉じ、多くは河岸の肥沃地を

産業

英露協約  
勢力範圍

選びて農耕牧畜に従事す。穀物・果實・棉・煙草・阿片等の産多く、  
また絹織物・毛氈等を出す。

絨氈製織の圖



明治四十年八月、此地方に關し、英露兩國の間に協約成立し、波斯の北部は露國、東南部は英國の勢力範圍とし、波斯灣邊一帶を以て中立地帯となし、而してアフガニスタンは全部英國の勢力の下に置きたり。勢力範圍とは勢力國が商工業若くは政治上優越なる權利を占むる區域にして、表面其國の主權を尊重し、各國の機會均等を聲明すと雖、實際は勢力國の意見行はれ、一轉して保護國となり、再轉屬領となるを常とす。

從來大國の間に介在せる小國が、國力貧弱内政腐敗しながら、昨は甲に依り、今は乙を頼み能く自から全うせしものも、近年大國間の協約行はれ、或は折れて一方に屬し、或は分割せらる。

機會均等とは或る一國に特殊の權利を與ふることを約することなく、各國平等にするを謂ふ

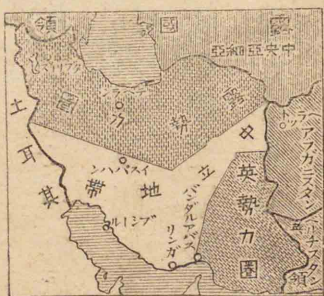
地方誌

ベルチスタン  
ケラット  
アフガニスタン  
カブール  
波斯

一、ベルチスタンは高原の東南部を占め、一部は英領印度の直轄州となり、一部は英吉利の保護領となり、數多の部落に分れ、その中ケラットの酋長最も勢力あり。

英露協約

波斯に於ける勢力範圍の劃定



二、アフガニスタンは高原の東北部を占め、全部英國の勢力の下にあり、カブール・カンダハル・ヘラット等の部落に分れ、カブール王最も勢力ありて、全土の主權者と認めらる。

三、波斯は高原の西半を占む。國王をシャーと謂ひ、回教の經典を以て國法となす。近年憲法を發布し、國會を設けたれども、その運用宜しきを得ず、革命變亂相次ぎ頗る露國の干

テヘラン  
イスパハン  
タブリーズ  
アシル  
リンガ  
バンドルアバス

涉を受く。首府テヘランは北部に偏在し、舊都イスパハンIsfahan(8)は略ぼ國の中央に位し、タブリーズTabriz(40)は西北部にありて、露西亞と交通の要路に當り、波斯灣のブシルBushire、リンガLingah及バンドルアバスは英國及印度に對する重要貿易港なり。

### 第九章 亞細亞土耳其及亞刺比亞

#### 第一 亞細亞土耳其 Asiatic Turkey

土耳其の行政區劃にて亞細亞土耳其と稱するは亞刺比亞の一部をも含めども茲にはこれを分割して掲ぐ

境域・地形 亞細亞土耳其は歐羅巴土耳其と共に一の帝國をなし、イラン高原の西にあり。地中海と黒海との間に高原性の半島となりて突出し、ボスポロス海峽を以て、歐羅巴土耳其に對し、その東南はメソポタミア低地となりて波斯灣に臨み、西南はシリア高地となりてアラビア高原に連な

#### 住民・生業

る。面積八萬七千方里あり。

住民・生業 人口千六百萬あり、土耳其種族最も多數にて、回教を奉ず。概ね農業に従事し、小麥・棉・煙草・阿片・葡萄・橄欖・橙イチヂク・無花果等を産し、養蠶盛なり。生絲・乾葡萄を重要輸出品とす。貿易は英吉利との海路取引最も多けれども、獨逸人盛に入込みて農業・商業を營み、獨逸の力にて成るバグダード鐵道はボスポロス海峽の岸なるスクタリより起りて、波斯灣に至る計畫にて、既に其半を竣工せり。

#### 地方誌

一、アルメニア 東北部の高地にして、東境にアララット山Ararat聳ゆ、住民はカフカズ人種に屬するアルメニア種族にて、希臘教を奉じ、爲に回教を奉ぜざる土耳其政府及人民と屢々

アルメニア

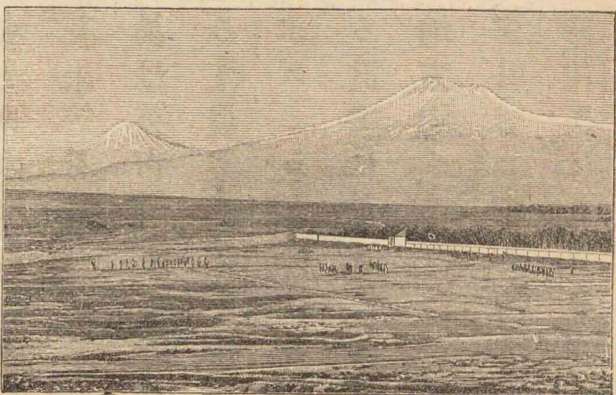
小亞細亞

スミルナ

キプロス島

シリア

望遠の山トッアラ



に平行し、その内部はシリア沙漠となる。兩山脈間にヨルダン

Jordan

衝突することあり。

二、小亞細亞 一體の高原をなし、その西岸は港灣島嶼に富む。スミルナ

Asia Minor

Smyrna (37)

は此國最重要の貿易港にて、世界屈指の良港なり。南岸に近くキプロス

島あり英吉利に屬す。

Cyprus

三、シリア

リバノン・アンチリアノンの兩

Libanon

Antilibanon

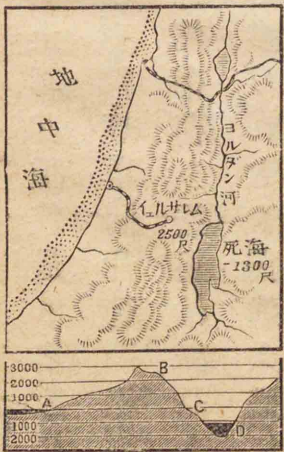
山脈地

地中海

近

附

海



死海附近

(断面圖の數字の單位は尺なり)

世界最低地

海水は通常千分の三十五の鹽分を含み死海は千分の二百五十を含む蓋し蒸發量は降雨量よりも多き故漸次減水し而して鹽分は元のまゝなるに因る

河の谷あり、死海に終る。死海の水面は海面よりも低きこと千三百尺にして、その水多量に鹽分を含み、魚族棲息すること能はず。ダマスカは此地方の大市場なり。イエエルサレムは古の猶太の都にて、基督の墓あり。ベテレヘムは基督の生れし地なり。この地方靈場舊蹟多く、巡拜者常に絶えず。

Judea

Bethlehem

Jerusalem (8)

メソポタミア

ベテレヘム

イエエルサレム

ダマスク

シリア

パピロン

四、メソポタミア

Chaldea

Babylon

Mesopotamia

Euphrates

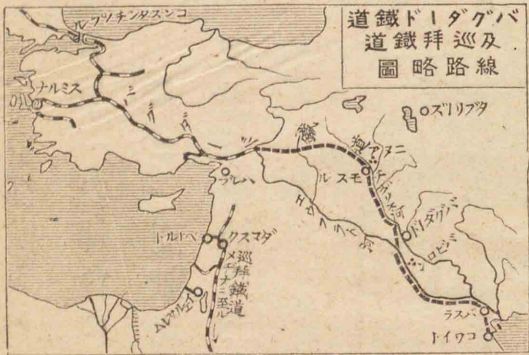
トの二大河は、廣大なる平野を作り、下流は合してシアルアラブとなり、波斯灣に注ぐ。温度高く、地味肥沃なれども、住民灌漑を力めざるため、土地次第に荒廢し、往古繁榮を極めしパピロン。

シアルアラブ

Shatel Arab

パピロン

Babylon



道鐵ドイタクバ 道鐵拜巡及 圖略路線



ニヌア  
バグダード  
コワイト

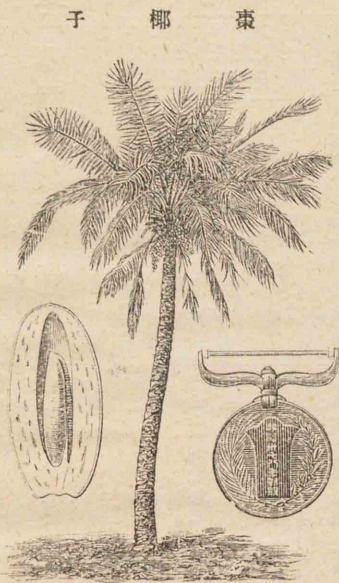
地形・氣候・生物  
棗椰子  
高さ七八十尺  
に達す此地方  
及地中海岸に  
生じ其葉は歐  
洲一般宗教上  
又は戦捷の祝  
祭の裝飾に用  
ふ左側の圖は  
其果實右側の  
圖は明治三十  
七八年戦役記  
念章にして此  
葉を彫刻せり

住民

ニヌアの都城も今は沙漠中に埋没せらる。バグダードは此  
地方第一の都會にて、コワイト港は波斯灣の貿易港なり。  
Bagdad (22)  
Koweit

## 第二 亞刺比亞 Arabia

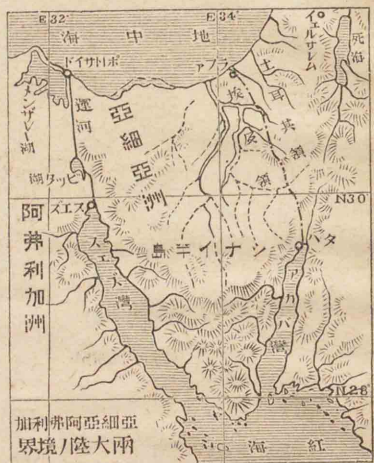
總説 亞細亞土耳其の南方に突出せる大半島にして、全  
土簡單なる卓狀の臺地な  
り。氣候炎熱、降雨稀に、内部  
は廣大なる沙漠なり。植物  
には**珈琲・棗椰子・護謨**あり。  
Date Palm  
家畜には**馬・駱駝**あり。波斯  
灣内には**眞珠**を産す。住民  
はアラブ種族にして、回教を奉じ、遊牧を事とし、また駱駝を  
使役し、隊伍を組み、遠地に行商す。



メッカ  
メヂナ

内部  
英國保護領

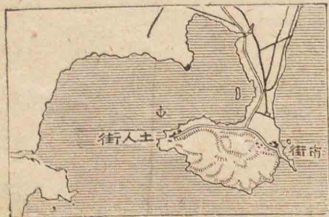
オーマン王國  
クリアムリア  
諸島



地方誌 紅海に沿へる一帯

の地は土耳其に屬し、回教の教  
祖マホメットの生地たるメッ  
カ、その死所たるメヂナは賽者  
常に絶えず。地中海岸より來る  
巡拜鐵道は、ダマスク・イエルサ  
レム・メヂナを経てまさにメッカに至らんとす。

内部は所所に獨立の部落ありて、酋長これ  
を治め、所屬未定の狀態にあり。波斯灣の南岸  
なるオーマン及、その以西の海岸モドラ一帯、バ  
ブエルマンデブ海峽に至るまで、並に沿岸島  
嶼及ベリム諸島は總て英吉利の保護を受く。その



港 ン デ ア

アデン

中アデンは英領にして紅海の門戸に當り、重要な石炭貯藏港なり。  
Aden

### 第十章 亞細亞地理括論

面積人口

面積人口 亞細亞洲の總面積二百六十五萬方里の中露領百分の四十を占め、支那は二十七、印度は十一に當る。人口九億中、支那四億、印度三億、日本六千九百萬、瓜哇三千萬は、その主たるものなり。

産業

産業 季節風の吹く地方は、熱帶溫帶共に米の産多し。その他溫帶の地には、麥・豆・蠶絲茶を産し、熱帶地方には一般に綿・麻・甘蔗・珈琲・茶・藍・煙草・阿片・香料・椰子・護謨等を産す。生絲は日本・支那を世界の二大産地とし、茶もまた兩國の特産なり。

茶は熱帶にも産すれども高地低温の所に限る

しが、アサム及錫蘭の茶業急に勃興して、兩國を凌駕せり。またヒマラヤ山脈の南麓及馬來地方にては、護謨樹の栽培年々その數を増せり。

その他中部及西部には、牛・羊・馬・駱駝等の畜産あり、隨て毛織物の産少からず、また西比利亞には毛皮の産多く、オホーツク海には漁業盛なり。鑛業は馬來半島の錫、バクレー及スマトラの石油、西比利亞及印度マイソルの金、錫蘭島の石墨等、わが國の銅・石炭と共に重要なり。支那には鐵鑛を産し、又無限の石炭を地下に藏し漸次産額を増しつゝあり。

貿易交通

貿易交通 日本・支那・印度は人口多く産物饒かなれば、歐米諸國は近年頗る亞細亞の貿易に重きを置き、商船の往復頻繁となれり、歐洲諸國の商船はスエズ運河を過ぎ、印度洋

航路

を経て大抵本邦を終點とし、亞米利加船は太平洋を航行し、わが國を経て、香港・マニラ等に達す。日本郵船會社の歐洲航路は横濱を發し、神戶・門司・長崎・上海・香港・新嘉坡・コロンボを経て、スエズ運河に入る。これ各國船舶の普通に執る所の順路なれども、この外露國船は浦鹽斯德、佛國船は西貢、和蘭船はバタビア等の特有寄港地あり。

海底電線

右の航路に沿ひて、大抵海底電線沈設せられ、なほ濠斯太刺利・阿弗利加にも達す。また太平洋には、本邦及比律賓群島より北米合衆國に達するものあり。

鐵道

鐵道は、印度に三萬哩、本邦に六千哩、支那には五千哩あれども、互に連絡せず。たゞ四千哩の西比利亞鐵道は、東西洋交通の最捷路にして、事實上世界の公道たり。

邦國

**邦國** 本大陸はその開化頗る古く、三千年前既に支那・印度・土耳其等に於て隆盛なる邦國を建立し、世界の大宗教たる佛教・婆羅門教・耶蘇教・回教等も、總て本大陸より起りしが、後世に至り、勢力次第に衰へ、大部分は歐洲諸強國の屬地となれり。獨立國中、支那は自衛の力薄く、日・英・米の三國が、疆土保全を宣言するに由りて、分割を免かれ、暹羅・波斯・アフガニスタン等は、大國の均勢によりて、中立を保ちしが、近年大國の協商行はれ、漸次保護國に變ぜんとす。獨わが國は一等國の列に入り、東洋に雄視す。

列強の勢力

**列國の勢力** 英吉利・和蘭・佛蘭西の諸國は本洲中最も豊富なる土地を有し、露西亞領は面積廣けれども、收利これに伴はず、貿易は英吉利人最も盛にこれを營み、海上船舶の往

來頻繁なれども、近年獨逸の競争頗る激しく、本國より土耳其を貫きて波斯灣に出る陸上の通路を開かんとし、北米合衆國また頻りに販路を擴む。貿易の利を完うするには、海軍力を以てこれを保護せざるべからず、由て獨米兩國共に海軍を擴張し、英吉利は艦隊をシンガポールに備へ、印度洋沿岸は直接間接にその勢力の下に置き、他國をして一指を染めしめず。太平洋方面には、わが國の勢力全く他國に超絶せり、故に日英同盟の勢力は、能く亞細亞洲の平和を保障して餘あり。

中等地理學教科書 外國篇 [上卷] 終

支那 (大正二年)	輸出總額 六〇四九五 生絲及厚絲繭 一・四七三 茶 五〇九 豆類 三三四 各種絹織物 三三九 棉花 三三九 牛及水牛皮 三三九 各種植物性油 三三九 胡椒 一八五 錫 一四三 麥及其他穀類 一四三 生牛豚 一四三 輸入總額 八・五三四 綿布類 一・六九三 絲類 一・〇六九 阿片 六二五 砂糖 五四六 石油 三〇一 米 二七五 海產物 二四六 藍及アニリン 三三五 鐵類 三〇四 麥粉 一五五 石炭 一四三 機械類 二九七 機寸及其材料 二八九	印度 (自元年四月至二年三月)	輸出總額 一六〇九九 米 二・七〇五 棉花 一・八九〇 黃麻 一・〇三三 黃麻製品 一・五二四 油料種子 一・四〇七 小麥及麥粉 一・三三三 皮革類 一・〇九三 茶 八六三 錫 八三三 胡椒 七四一 各種穀類 五九二 羊毛 一七三 輸入總額 一〇・七三三 棉製品(除ク) 三・七五三 砂糖 九五一 鐵及鋼 七六〇 鐵道用品及車輛 四二六 大器械類 三九五 綿絲 二五〇 鐵油 二五〇 金物及刃物 二五〇 毛製品 二〇三 絹製品 二〇三 銅 一〇〇 食料品 一五五 被服類 一五五 棉花 一四二	蘭領印度 (大正二年)	輸出總額 四七五三 砂糖 一・〇三一 煙草 七〇〇 コブラ 三三九 珈琲 一・五二四 石油 一・六六六 茶 一〇一 錫 一三六 胡椒 一〇六 輸入總額 三・〇〇五 米 七五七 鐵及鋼 三二九 機械類 一六五 食料品(除ク) 一六五 硫酸安母尼亞 八〇五 乾鰯魚 七六	暹羅 (自元年四月至二年三月)	輸出總額 六二六 米 四九四 チーク 四三 皮革 一六九 海產物 一六九 輸入總額 一・二二 綿製品 一・二二 鐵鋼及其製品 一・二二 食料品 一・二二 寶石類 一・二二 砂糖 一・二二 阿片 一・二二 絹製品 一・二二	比律賓 (自元年七月至二年六月)	輸出總額 一・〇三六 マニラ麻 一・〇三六 コブラ 一・〇三六 砂糖 一・〇三六 煙草 一・〇三六 輸入總額 一・二二 綿製品 一・二二 器械及附屬品 一・二二 米 一・二二 石油 一・二二 石炭 一・二二	波斯 (自元年四月至二年三月)	輸出總額 八七六 棉花 一・八七六 綿製品 一・八七六 果實 一・八七六 輸入總額 一・二二 綿織物 一・二二 砂糖 一・二二 茶 一・二二
-----------	---	-----------------	---	-------------	--	-----------------	--	------------------	---	-----------------	---

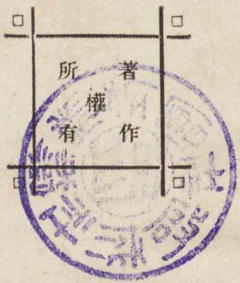
附錄

輸出入比較表

貿易統計は各國産業の方針を窺ふに重要適切のものなれば、茲に主要列國及主要植民地の輸出入品目別を掲ぐ。之により例へば輸入品に原料品と食料品多ければ、その國は工業國にして、輸出品に穀物・木材等多ければ、その國は産業國なりと知るべし。  
貨幣の單位は各國をそれぞれ異なり、亞細亞諸國は大抵銀貨なる故、銀貨を以て示すこと正當なれども、相互比較の爲めには不便少からず、由て左の割合を以て金貨に改算せり。  
銀貨の騰落に伴ひ異動少からざれども、大體甚しき相違なかるべし。  
支那一海關兩 一圓五十錢  
暹羅一チカル 七十五錢  
印度一ルーピー 六十六錢六厘  
波斯一クラン 二十錢  
其他は英貨一磅を十圓米貨一弗を二圓とす。  
輸出入品目はその重要なもののみを掲ぐ。  
故にこれを合算すとも輸出入總額に充たず。

單位 萬圓

明治三十九年十二月七月初版印刷  
 明治三十九年十二月十月初版發行  
 明治四十年二月廿八日訂正再版發行  
 明治四十二年十一月五日訂正三版發行  
 明治四十三年一月廿七日訂正四版發行  
 明治四十四年十二月四日訂正五版發行  
 明治四十五年三月十七日六版發行



大正三年十月三十日訂正八版發行  
 大正三年十二月十九日訂正九版印刷  
 大正三年十二月廿二日訂正九版發行  
 大正五年四月三十日十二版發行  
 大正六年二月十五日十三版發行  
 大正七年一月十日十四版發行  
 大正八年一月十五日十五版發行

新定中等地理外國篇上

定價上卷各參拾七錢

大正八年度臨時定價金五拾貳錢

著者 猪間收三郎

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地

發行者 株式會社啓成社

代表者 土屋義行

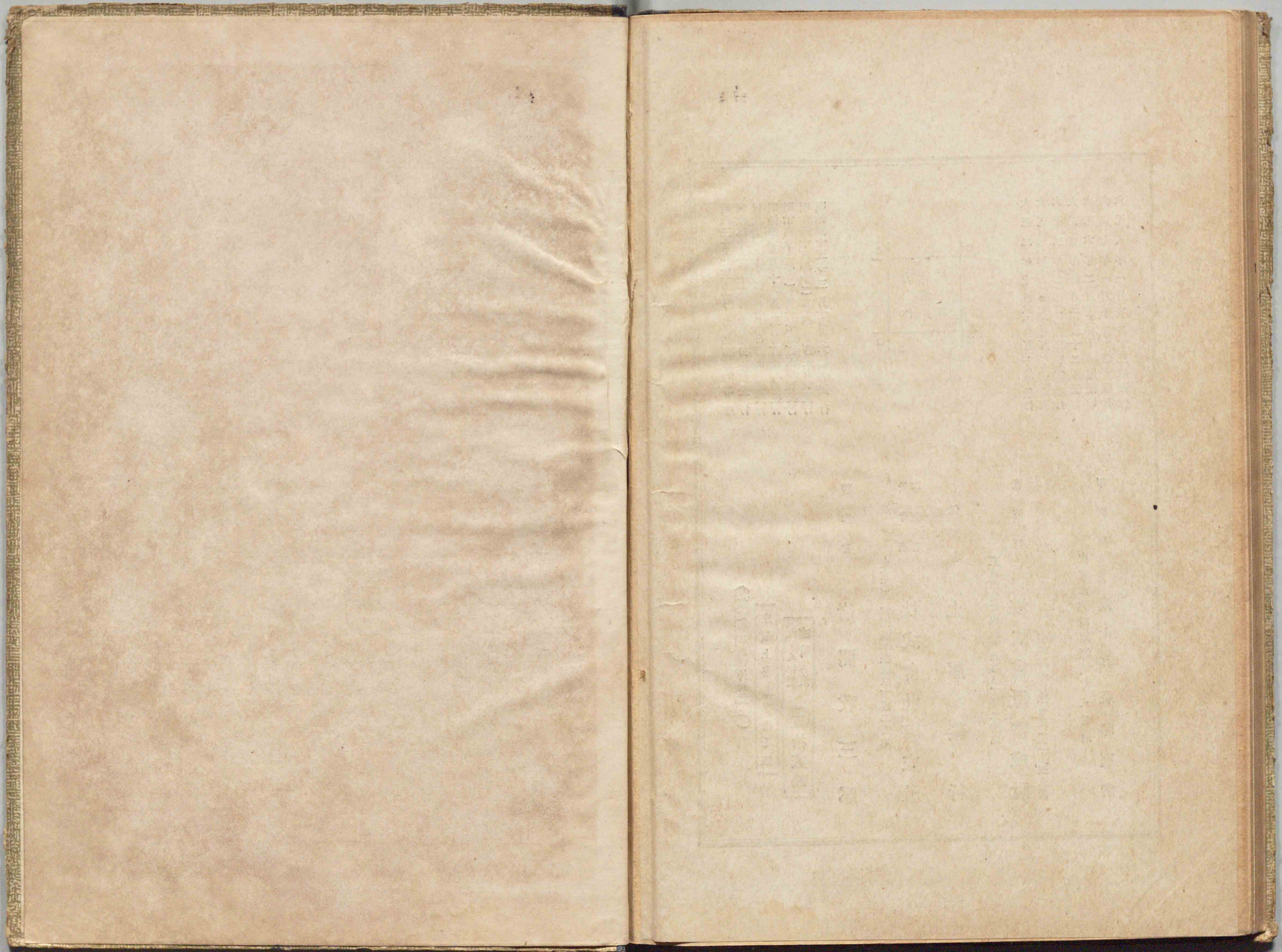
東京市日本橋區本銀町三丁目二番地

發行所 株式會社啓成社

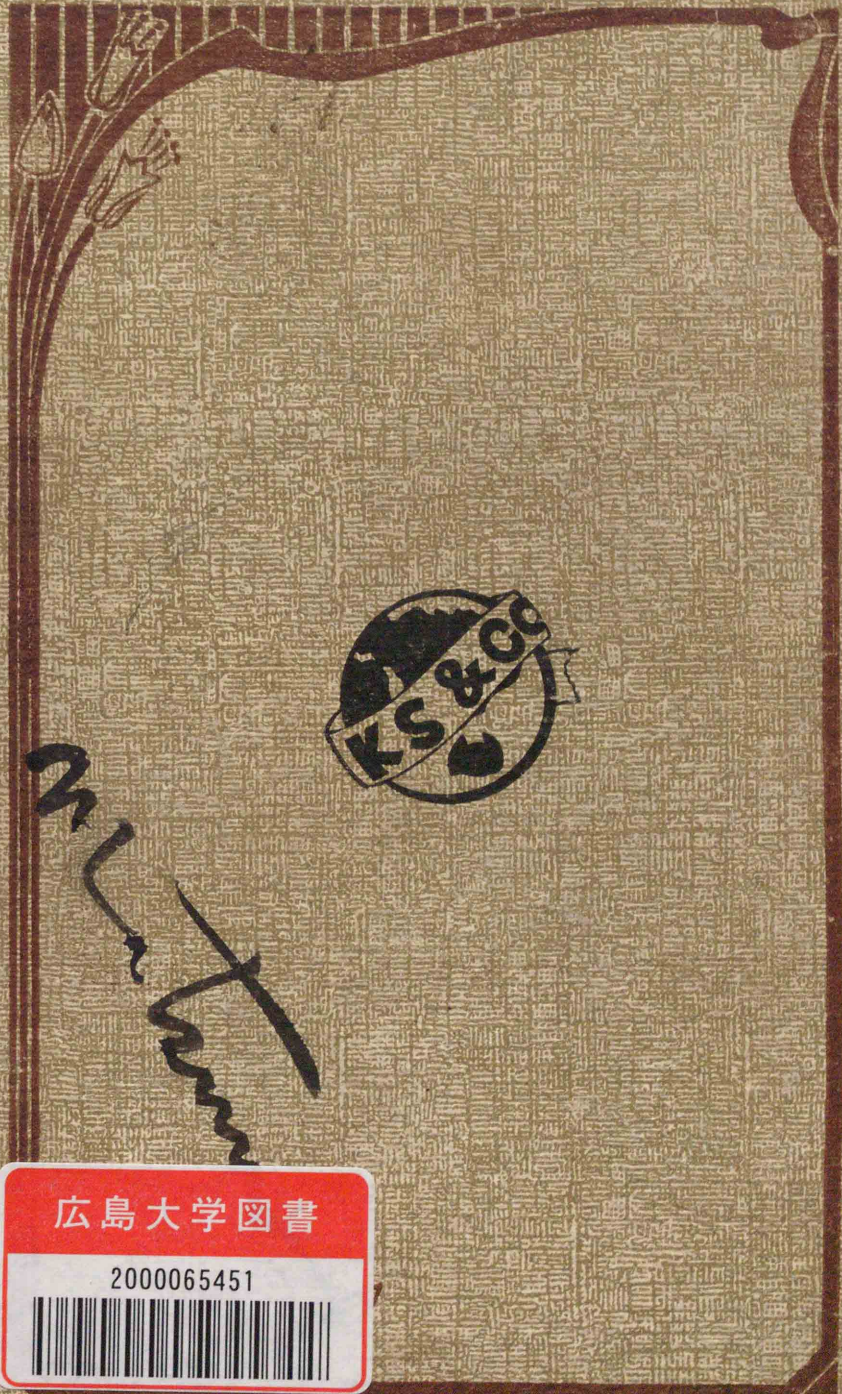
振替貯金口座東京一二〇五五番

東京市神田區蠟燭町八番地

印刷所 武木凸版印刷所







*Handwritten signature or scribble in black ink.*

広島大学図書  
2000065451  
